



2025年6月期 第2四半期

決算説明資料

2025年2月12日

証券コード 3446

株式会社ジェイテックコーポレーション
<https://j-tec.co.jp>



Photo Akira Ito / aifoto

Optical

Device Development

Life Science

ESCO, Ltd.

01 ビジネスセグメント

02 2025/6期 2Q 業績

03 2025/6期 業績見通し

04 Innovation2030の実現に向けて

05 Appendix

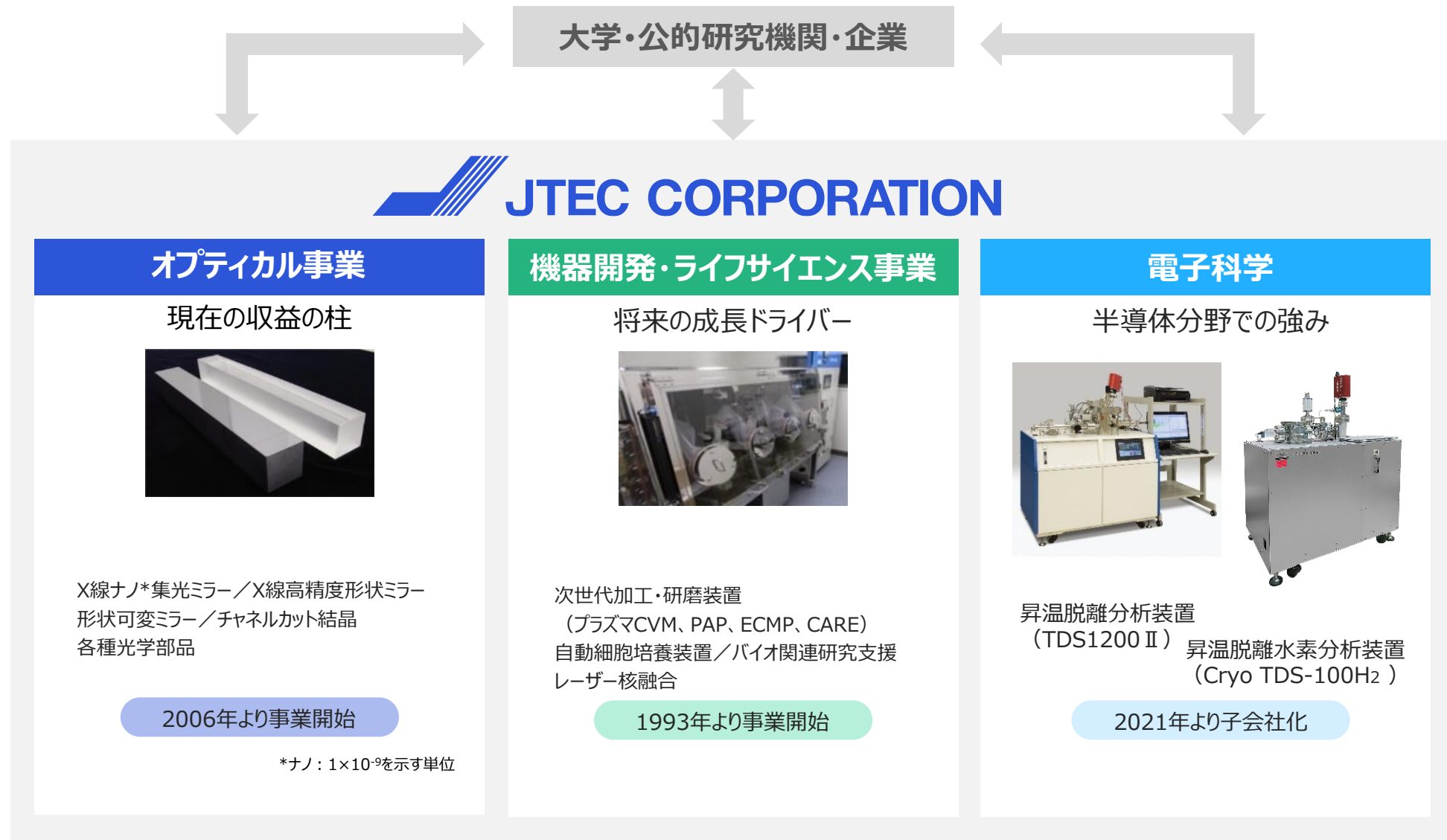
05-01 会社紹介

05-02 Innovation2030

INDEX

01

ビジネスセグメント



INDEX

02

2025/ 6 期2Q業績

2025/6期2Q 決算：損益状況

- 前年同期比で売上高は微増
- 売上総利益率は改善したが、生産性向上や研究開発促進を目的とした人員増に伴う人件費アップにより営業利益、当期純利益などの利益は前年同期比で低下

(百万円)

	損益状況（累計）			
	2024/6期2Q	2025/6期2Q	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	537	564	26	5.0%
売上総利益	291	326	35	12.1%
売上総利益率	54.1%	57.8%	+3.7pts	
営業利益	-209	-214	-5	—
営業利益率	-38.9%	-37.9%	+0.9pts	
経常利益	-210	-228	-17	—
経常利益率	-39.2%	-40.5%	-1.2pts	
税引前利益	-211	-228	-17	—
当期純利益	-158	-168	-9	—
当期純利益率	-29.5%	-29.8%	-0.3pts	

2025/6期2Q 決算：四半期ごとの業績推移

- 2Qは前年同期比で増収増益、ただし製造難易度の高いミラーの出荷が多く、工数増により売上総利益率は低下

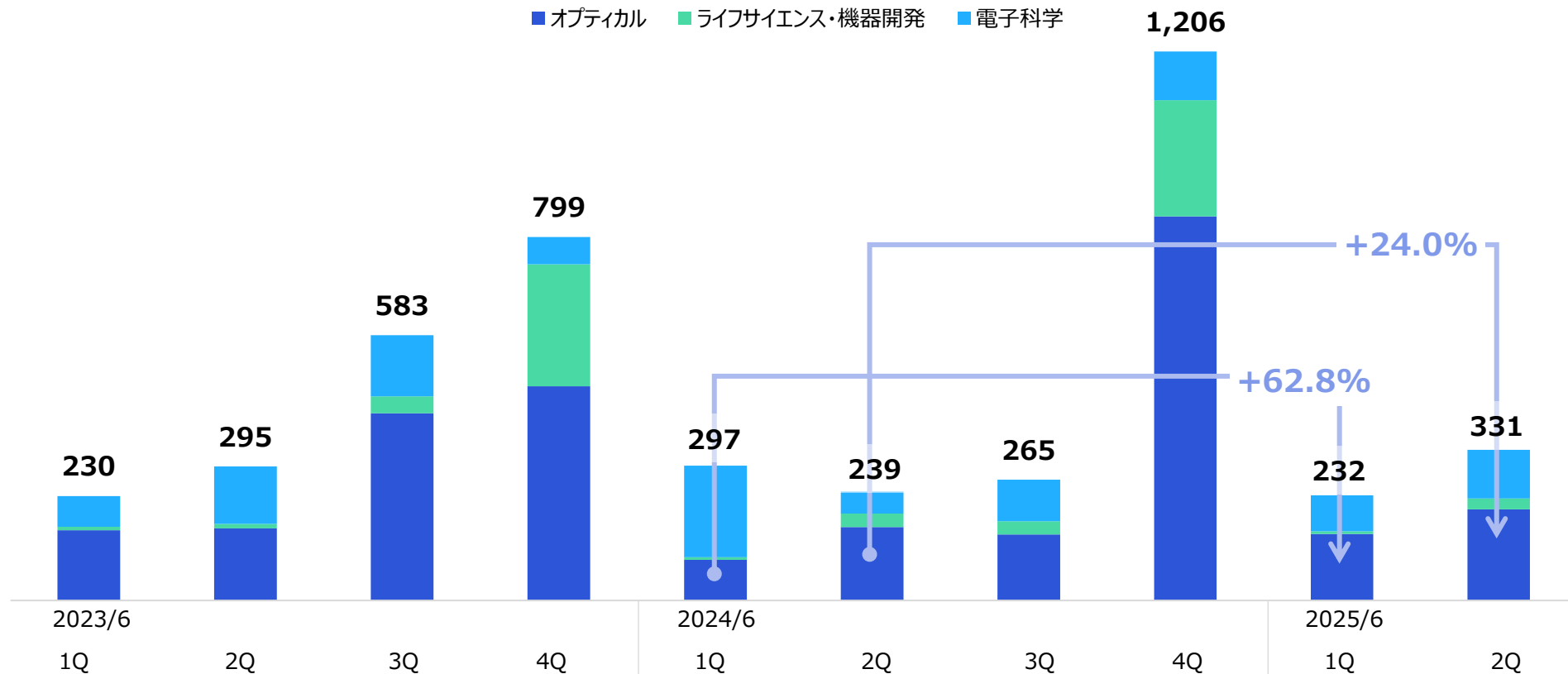
(百万円)

	2024/6期				2025/6期					
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	1Q/2Q比		前2Q/2Q比	
							増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	297	239	265	1,206	232	331	99	42.6%	91	38.3%
売上総利益	156	134	150	810	153	172	19	12.8%	38	28.4%
売上総利益率	52.5%	56.2%	56.7%	67.2%	65.9%	52.1%	-13.8pts		-4.0pts	
営業利益	-93	-115	-78	573	-132	-81	51	—	34	—
営業利益率	-31.4%	-48.1%	-29.4%	47.5%	-57.1%	-24.5%	+32.6pts		+23.6pts	
経常利益	-93	-117	-58	580	-147	-81	66	—	36	—
経常利益率	-31.4%	-48.9%	-21.9%	48.1%	-63.3%	-24.4%	+38.9pts		+24.5pts	
税引前四半期利益	-93	-117	-61	557	-147	-81	66	—	36	—
四半期利益	-74	-84	-47	405	-105	-62	42	—	21	—
四半期利益率	-25.1%	-35.0%	-17.8%	33.6%	-45.4%	-19.0%	+26.4pts		+16.1pts	

2025/6期2Q 決算：事業セグメント別

- オプティカルは1Q、2Qともに前年同期比で売上増
- ライフサイエンス・機器開発も下期偏重の売上を見込んでおり、想定内の水準
- 電子科学は主力装置売上が順調に推移

四半期売上高 事業セグメント別 (百万円)

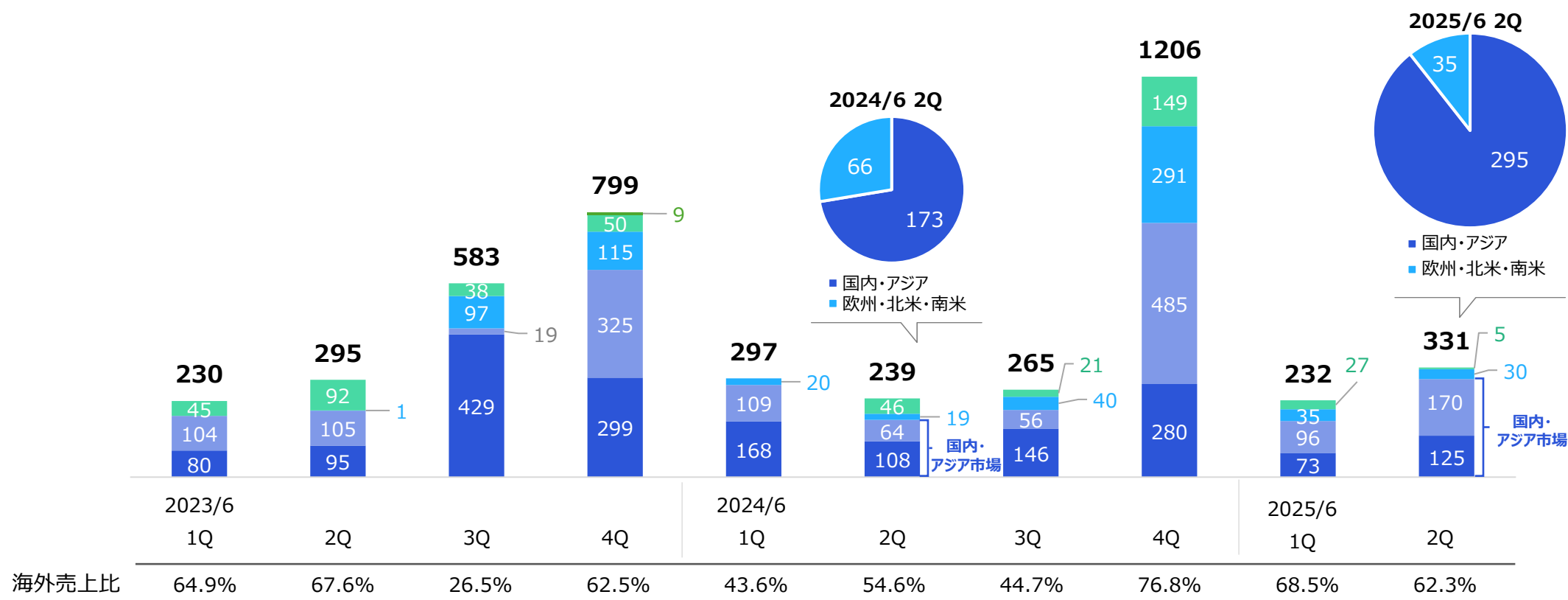


2025/6期2Q 決算：地域別

- オプティカル事業は中国向けが前年同期比倍増、国内を含むアジア市場の拡大が売上をけん引

四半期売上高 地域（出荷先）別（百万円）

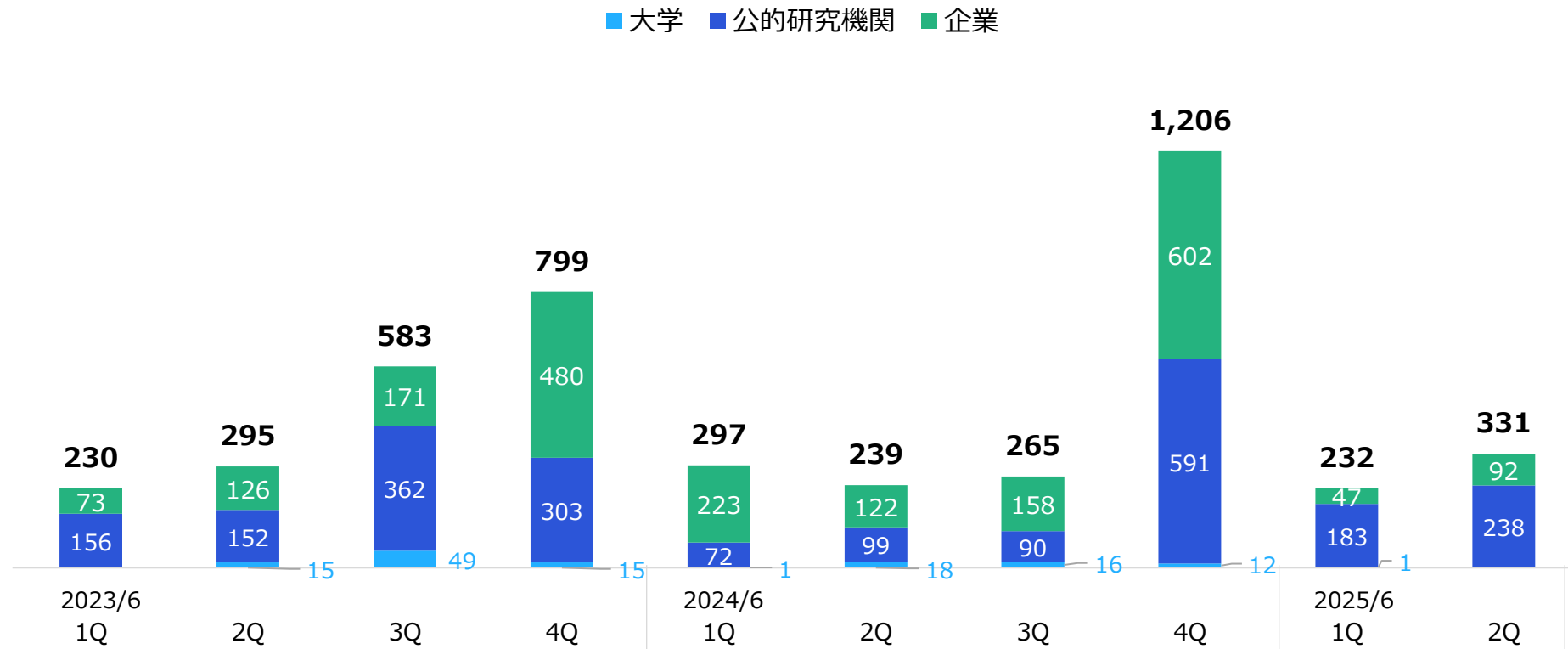
■ 国内 ■ アジア ■ 欧州 ■ 北米 ■ 南米



2025/6期2Q 決算：顧客属性別

- 2Qで見るとオプティカル事業が売上をけん引し、BtoG（大学+公的研究機関）が主体

四半期売上高 顧客属性別 (百万円)



2025/6期2Q 決算：投資・キャッシュフロー

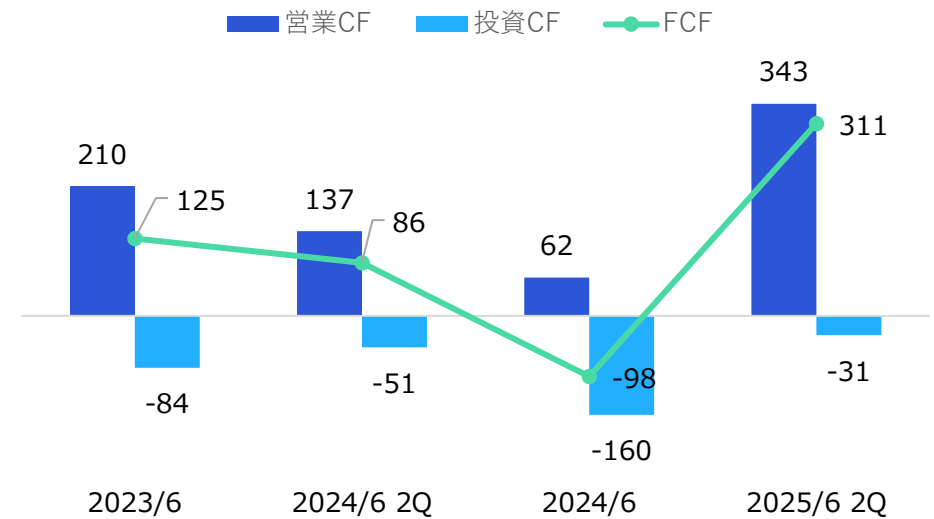
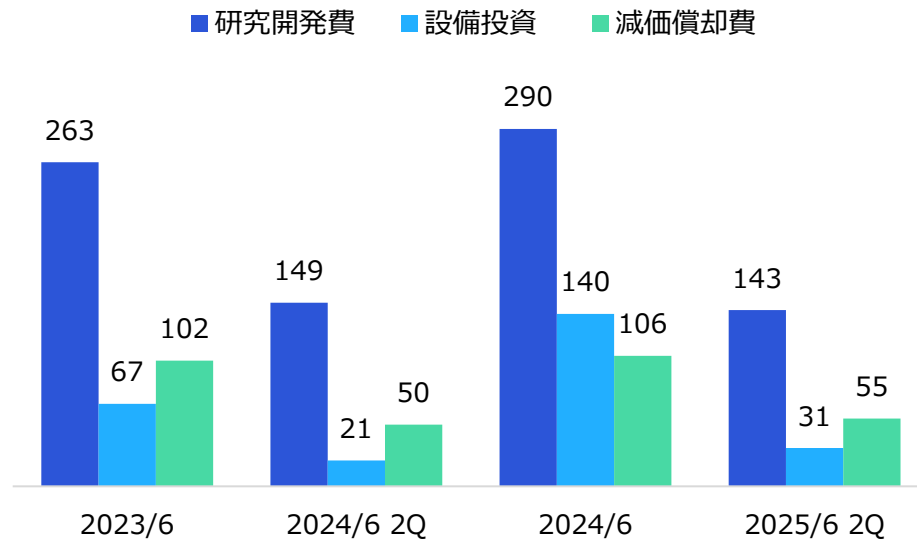
- 2Q累計の研究開発費は前年並み、生産性向上のための設備投資は下期に増加見込み
- 売上債権の減少による収入増によってFCFは大幅プラス

投資等 (百万円)

	2023/6期	2024/6期2Q	2024/6月期	2025/6期2Q
研究開発費	263	149	290	143
売上高比率	13.8%	27.8%	14.4%	25.4%
設備投資	67	21	140	31
減価償却費	102	50	106	55

キャッシュフロー (百万円)

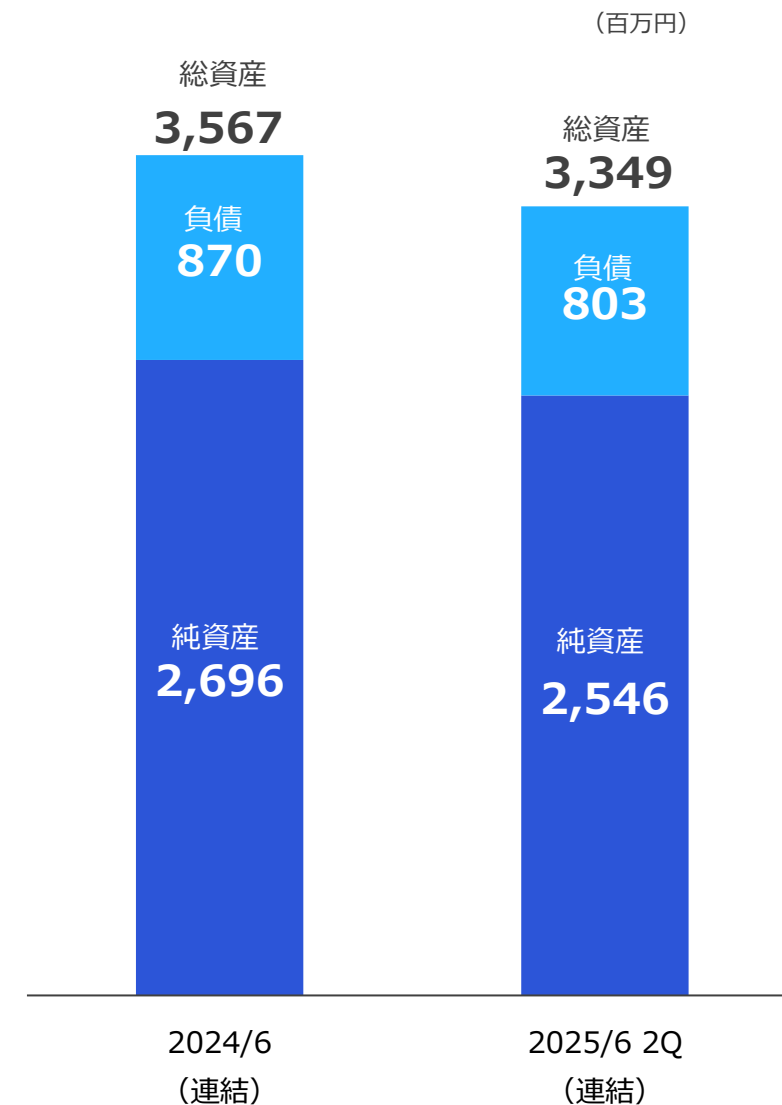
	2023/6期	2024/6期2Q	2024/6期	2025/6期2Q
営業CF	210	137	62	343
投資CF	-84	-51	-160	-31
FCF	125	86	-98	311



2025/6期2Q 決算：財務の状況

(百万円)

	2024/6期 (連結)		2025/6期 2Q (連結)		増減
流動資産	1,815	50.9%	1,569	46.9%	-246
資産の部 (現預金)	(610)	(17.1%)	(883)	(26.4%)	273
固定資産	1,751	49.1%	1,780	53.1%	28
部の部 (有形固定資産)	(1,339)	(37.5%)	(1,317)	(39.3%)	-21
資産合計	3,567	100.0%	3,349	100.0%	-217
流動負債	413	11.6%	384	11.5%	-28
負債の部 固定負債	457	12.8%	419	12.5%	-38
負債合計	870	24.4%	803	24.0%	-67
株主資本	2,696	75.6%	2,546	76.0%	-150
純資産の部 (資本金)	(837)	(23.5%)	(847)	(25.3%)	(9)
(資本剰余金)	(797)	(22.4%)	(807)	(24.1%)	(9)
(利益剰余金)	(1,061)	(29.8%)	(893)	(26.7%)	(-168)
純資産合計	2,696	75.6%	2,546	76.0%	-150
負債純資産合計	3,567	100.0%	3,349	100.0%	-217



INDEX

03

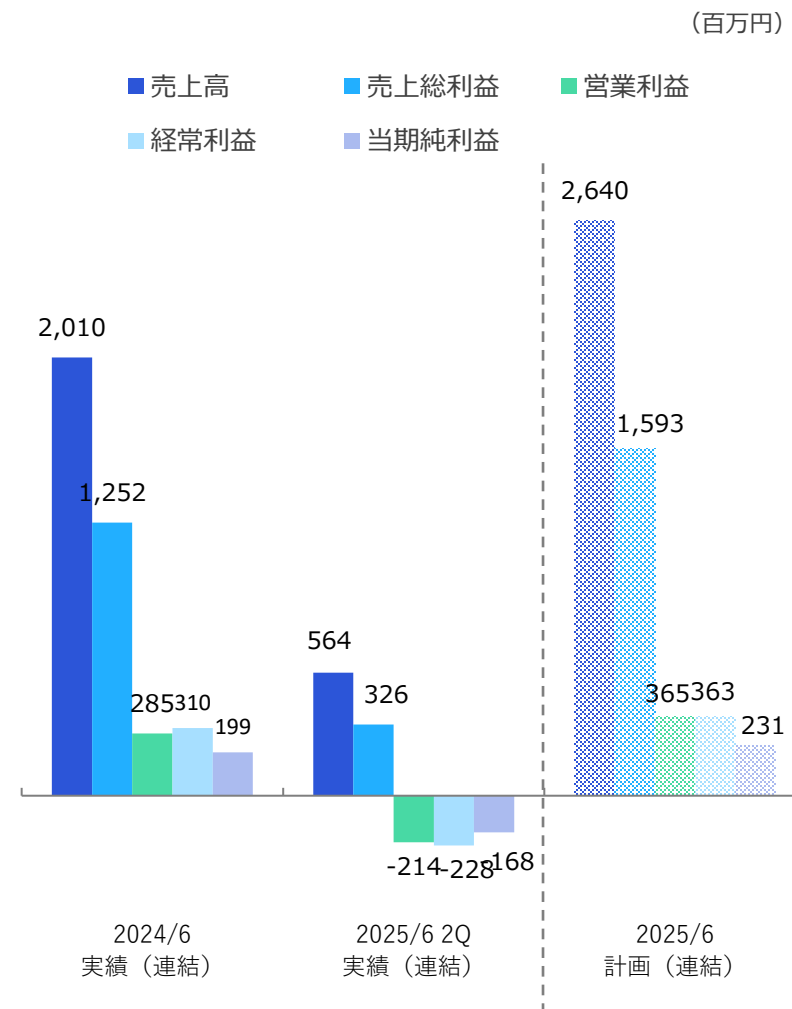
2025/6期 業績見通し

2025/6期 業績見通し

- 売上高は3割増を見込んでおり、増収増益見通し
- 但し、原価上昇と開発投資の影響で利益率は若干低下を見込む

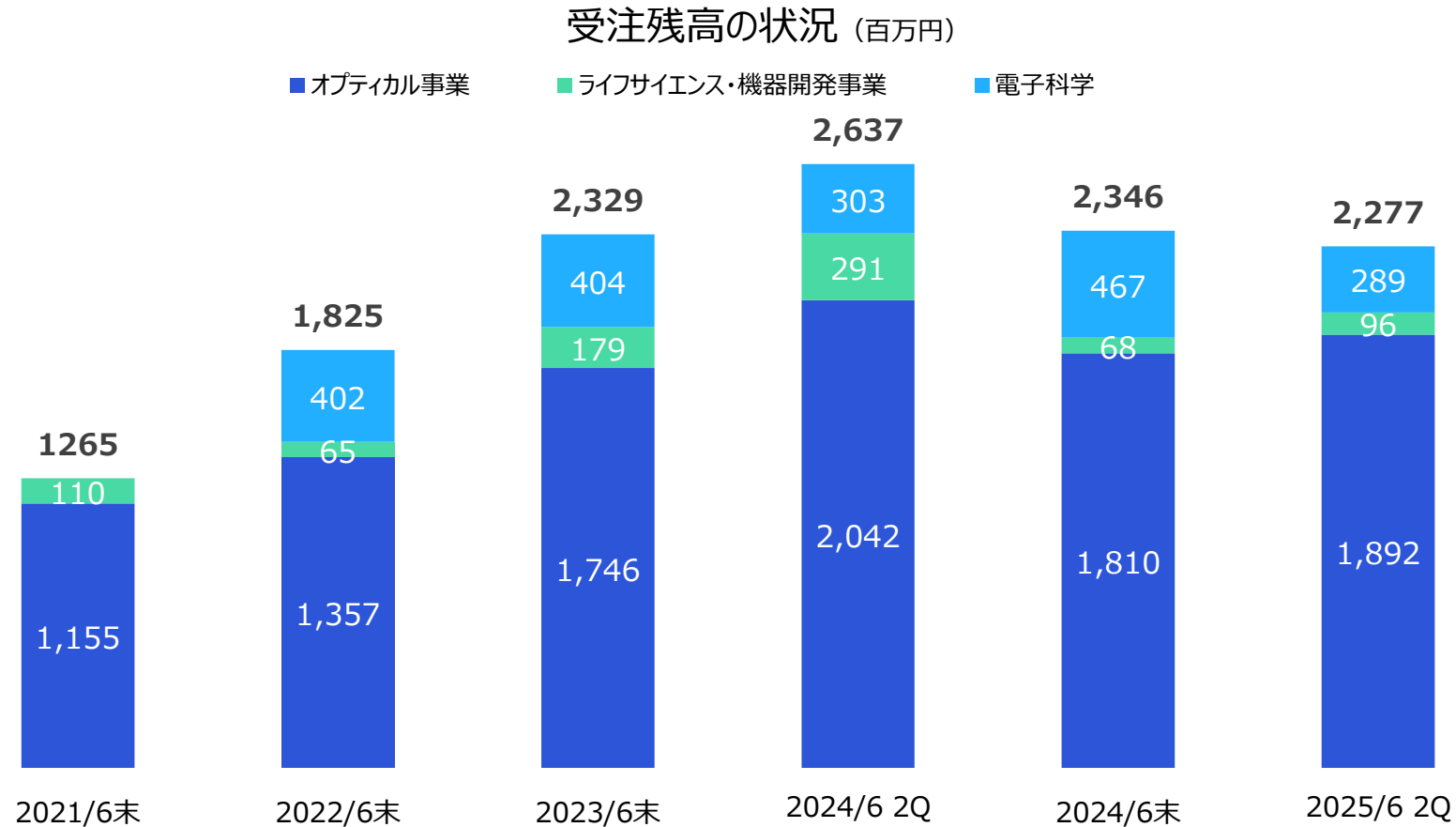
(百万円)

	2024/6期 実績 (連結)	2025/6期 2Q実績 (連結)	2025/6期 計画 (連結)	進捗率
売上高	2,010	564	2,640	21.4%
売上総利益	1,252	326	1,593	20.5%
売上総利益率	62.3%	57.8%	60.3%	
営業利益	285	-214	365	—
営業利益率	14.2%	-37.9%	13.8%	
経常利益	310	-228	363	—
経常利益率	15.5%	-40.4%	13.8%	
当期純利益	199	-168	231	—
当期純利益率	9.9%	-29.8%	8.8%	



2025/6期2Q 受注残高

- アジア市場の旺盛な受注を背景にオプティカルの受注残が積み上がり、来期以降の収益に大きく貢献



※受注確定分と受注確度の高い案件の合計
※2021/6期は電子科学分は含まず
※電子科学については2024/12末時点の数字

2025/6期 業績見通し：セグメント別見通しのサマリー、計画のポイント

(百万円)

		2025/6期 2Q実績 (連結)	2025/6期 計画 (連結)	進捗率
オプティカル	売上高	346	1,560	22.2%
	セグメント利益	55	682	8.2%
	セグメント利益率	16.1%	43.8%	
機器開発	売上高	2	335	0.7%
	セグメント利益	-57	1	—
	セグメント利益率	—	0.4%	
ライフサイエンス	売上高	28	165	17.4%
	セグメント利益	-18	22	—
	セグメント利益率	-65.8%	13.8%	
電子科学	売上高	187	580	32.3%
	セグメント利益	1	139	1.0%
	セグメント利益率	0.7%	24.0%	
調整額	売上高	—	—	—
	セグメント利益	-194	-481	—
合計	売上高	564	2,640	21.4%
	営業利益	-214	365	—
	営業利益率	-37.9%	13.8%	

オプティカル事業

- ・ アジア市場（中国、台湾、韓国）の受注が旺盛
- ・ 日本や欧米にある複数の先端放射光施設がアップグレードを控える
- ・ 半導体、宇宙分野向け高精度光学部品の受注数増加

機器開発事業

- ・ プラズマCVM：水晶デバイス用ウエハ加工装置の小型機から大型自動機への展開と潜在市場の掘り起こし及びシリコン系半導体材料加工への展開を図る
- ・ PAP：プラズマ援用研磨法によるダイヤモンド基板の高速・高精度加工システムへの展開
- ・ ECMP：イオン電導性物質を用いた電気化学機械研磨法によるSiCウエハ研磨プロセスの確立と装置へ参入
- ・ CARE：SAWデバイス用ウエハの原子レベル表面創成技術の実用化開発

ライフサイエンス事業

- ・ 再生医療・創薬分野における働き方改革に寄与する「自動細胞培養装置」のラインナップ拡大と「大型細胞培養自動化システム」の積極的な市場展開
- ・ 海外市場への参入
- ・ 研究機関や他企業との共同研究により開発に成功した幹細胞治療向けの幹細胞分離装置による認知症治療（自由診療）への展開

電子科学

- ・ 国内の半導体業界から、主力の昇温脱離分析装置「TDS1200 II」受注が増加し、2Qの売上に貢献、来期以降にも期待
- ・ 1Qに初めて中国市場での装置販売実績を上げ、今後の市場拡大に期待
- ・ 半導体業界等のニーズに対応すべくシリコン試料高性能温度測定機能などを備えた「TDS1200 II」の多機能化を開発中
- ・ 水素検出専用の分析装置「Cryo TDS-100H₂」やシリコン試料高性能温度測定機能付き「TDS1200 II」による受託分析業務の拡大

Innovation2030 の実現に向けて

長期成長戦略「Innovation2030」は、これまでのニッチトップ戦略で培った独自技術を、半導体分野のような大きな市場や、これから成長が見込まれる再生医療分野に適用・展開するための施策

Innovation2030の売上目標

2030年連結売上

150 億円

2030年 経常利益率

25 %

40 億円 M&A

積極的なM&Aを展開

ライフサイエンス事業

20 億円

自動培養装置及び周辺装置 10億円

細胞事業、再生医療事業、医療機器 10億円

機器開発事業

30 億円

PAP・ECMP・CARE等

- ・ダイヤモンドウェハ等 各種次世代加工・研磨装置
- ・次世代パワー半導体用のSiC,GaN等
- ・SAWフィルター 20億円

世界のレーザー核融合施設向け製品

形状可変ミラー、マニピュレーター等 5億円

オプティカル事業

60 億円

既存市場

高精度ミラー・各種新製品 20億円

リプレースミラー 5億円

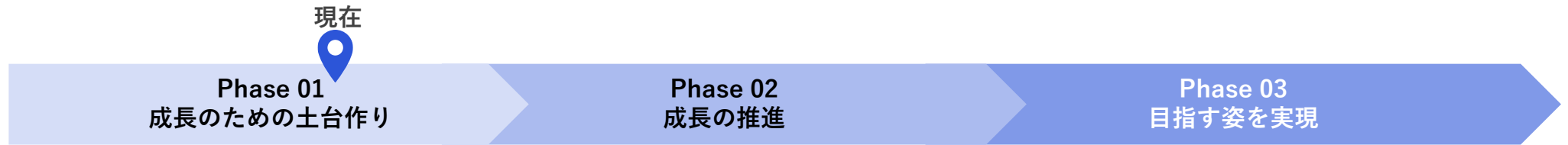
新規市場

半導体製造装置及び検査装置向け
光学部品適用 20 億円

次世代半導体及び衛星、天体等高
精度特注光学部品 15 億円

プラズマCVM

水晶振動子及びその他電子デバイス向け
ウェハ加工装置 5億円



土台 放射光用ミラーの新製品展開
 市場規模 240億円

現状の進捗

放射光用ミラー新製品の販売に注力

- ・回転体ミラー ・形状可変ミラー
- ・X線用結晶部品 など

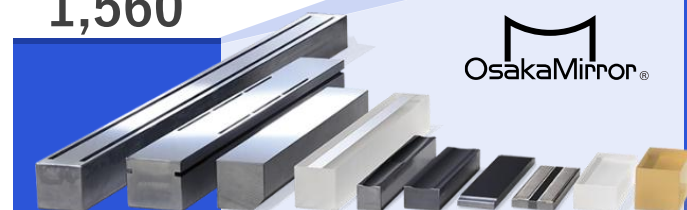
産学連携による半導体関連光学部品の研究開発に注力

【独自技術】ミラー加工計測装置



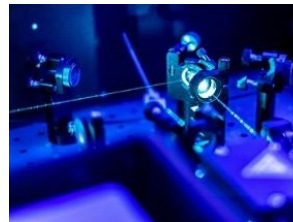
売上 (百万円)

1,560

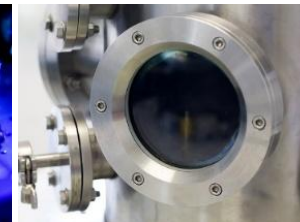


2025/6

成長 半導体関連光学部品の開発・展開
 市場規模 1,900億円



高精度レンズ



窓材

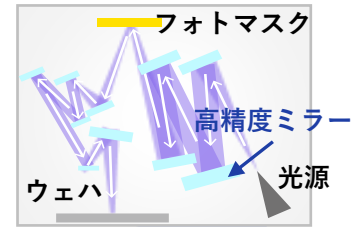
3,050

B to B
半導体関連

B to G
放射光用
ミラー

2028/6

目指す姿 半導体関連光学部品の拡販 (高精度ミラー)
 市場規模 5,000億円



EUV露光装置の概要

6,000

B to B
半導体関連

B to G
放射光用
ミラー

2031/6

半導体製造装置・
検査装置向け光学部品
2,000 (百万円)
次世代半導体向け光学部品
衛星天体等高精度光学部品
1,500 (百万円)

高精度ミラー・各種新製品
2,000 (百万円)
リプレースミラー
500 (百万円)

Business
Expansion

Core
Business

独自の加工・研磨技術を半導体加工用装置市場へ

現在

Phase 01
成長のための土台作り

Phase 02
成長の推進

Phase 03
目指す姿を実現

土台

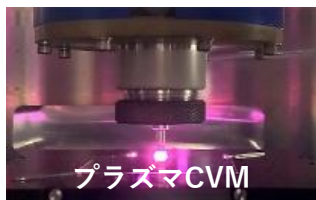
プラズマCVM装置、PAP装置、ECMP装置の早期売上形成

成長

半導体市場へタイムリーに参入
パワー半導体基板向け各種研磨装置の販売

目指す姿

第二の事業の柱に成長
次世代半導体や化合物半導体ウェハ向けに、加工・研磨装置が本格導入、大きく売上貢献



プラズマCVM・PAP・ECMP・CAREは、それぞれ大学発の独自の精密加工・研磨技術であり、実用化を推進し、早期市場導入を目指しています

現状の進捗

プラズマCVM：国内外で水晶振動子ウェハ加工装置として注力

PAP：ダイヤモンドウェハ等の研磨試作向けの装置として複数納入

ECMP/CARE：半導体メーカー等からの試作評価が順調に進展

半導体研磨装置市場

2024年
0.5兆円

EV, AI
5G・6Gの普及
年々拡大

2031年
2.3兆円

3,000

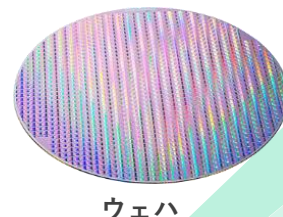
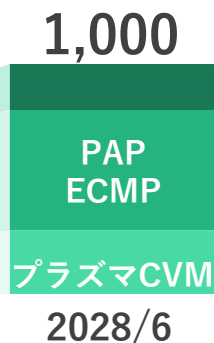
世界のレーザー核融合施設向け製品

形状可変ミラー・
マニピュレーター等
500 (百万円)

PAP
ECMP
CARE
等

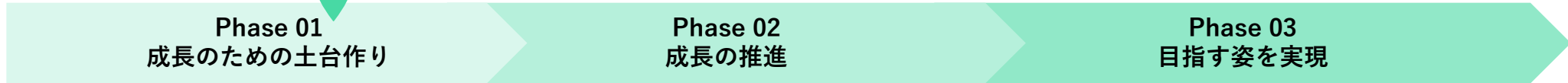
- ・ダイヤモンドウェハ等 各種次世代加工・研磨装置
- ・次世代パワー半導体用のSiC, GaN 等
- ・SAWフィルター
2,000 (百万円)

売上 (百万円)



水晶振動子及び
その他電子デバイス向け
ウェハ加工装置 500 (百万円)

現在



土台

労働人口減少で注目を浴びている自動細胞培養装置の販売拡大

MakCell
Compact Automatic Cell Culture Apparatus



労働人口減少



自動細胞培養装置
販売拡大

現状の進捗

大手製薬会社を中心に引き合いがある自動細胞培養装置の営業活動に注力

認知症の自由診療で使用する骨髄液分離装置の導入に向け、病院とアライアンスを構築中
軟骨再生治療に向けた研究開発推進中

成長

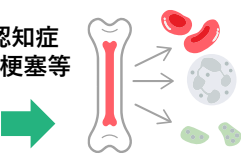
認知症・脳梗塞等治療に用いる骨髄液分離装置の開発、試験販売を推進

再生医療



患者増

認知症
脳梗塞等



骨髄液分離

骨髄液分離装置開発



幹細胞採取

幹細胞 (軟骨)

幹細胞を増やす

移植

耳介軟骨

新しい器官の再生

回転培養装置

軟骨再生治療に向けた研究開発推進中

目指す姿

医療・高齢問題に対応し、再生医療等製品(軟骨など)製造のための独自の細胞培養装置や、医療機器としての骨髄液分離装置の市場展開が加速

再生医療市場

2025年
3.8兆円

拡大

2030年
7.5兆円

医療現場

美容整形での
実用化へ

2,000

細胞事業
再生医療事業
医療機器

移植用軟骨製造培養技術の供給
骨髄液分離装置
1,000 (百万円)

自動培養装置
及び周辺装置

大型自動細胞培養装置
汎用型自動細胞培養装置
1,000 (百万円)

売上 (百万円)

165

2025/6

CellMeister



大型自動細胞培養装置

550

自動培養装置
及び周辺装置

2028/6

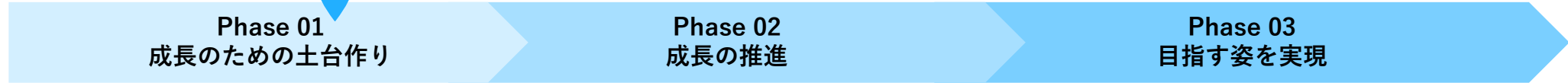


軟骨再生用培養装置

2031/6

シナジー効果のある企業との相乗的な成長を目指す

現在



土台 電子科学(株)の新規開拓市場で主力製品の販売が増える

成長 積極的なM&Aを展開
当社とのシナジーが期待できる複数の会社のM&Aを実施

目指す姿 当社と子会社の相補的な関係を構築し、順次の売上拡大を実現する

現状の進捗

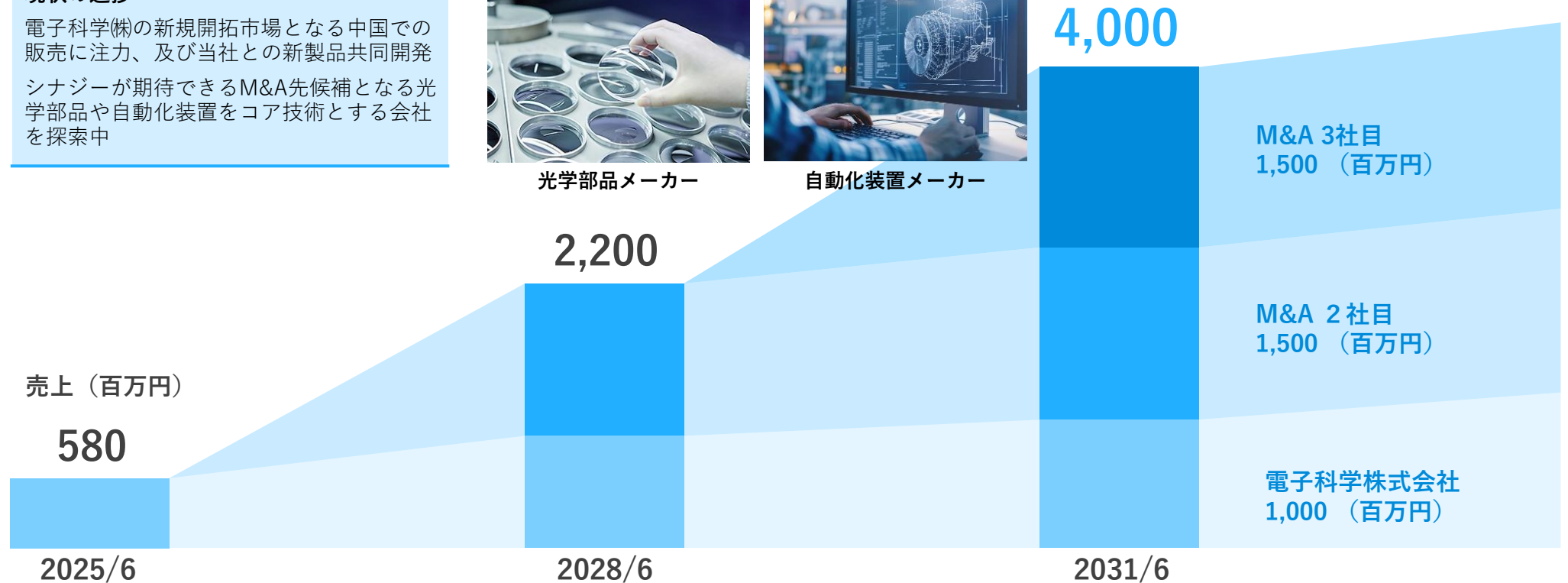
電子科学(株)の新規開拓市場となる中国での販売に注力、及び当社との新製品共同開発シナジーが期待できるM&A先候補となる光学部品や自動化装置をコア技術とする会社を探索中



光学部品メーカー

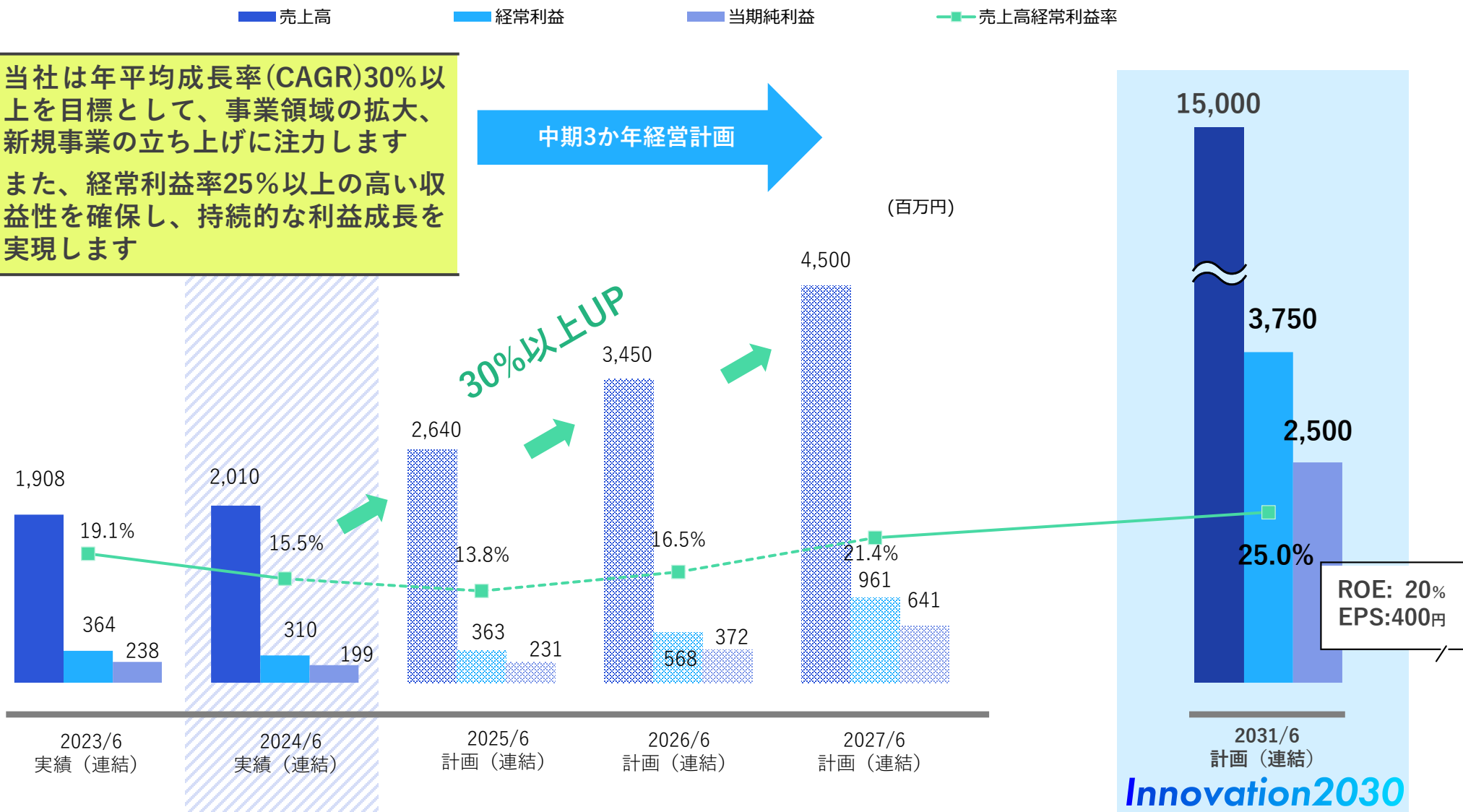


自動化装置メーカー



Innovation2030 までのマイルストーン

当社は年平均成長率(CAGR)30%以上を目標として、事業領域の拡大、新規事業の立ち上げに注力します
 また、経常利益率25%以上の高い収益性を確保し、持続的な利益成長を実現します



技術名	技術内容	事業化状況				
		研究開発	ユーザーサンプル テスト加工	スタンドアローン 装置販売	パイロットライン 装置販売	生産ライン 装置販売
プラズマCVM Plasma Chemical Vaporization Machining	技術の特徴： <ul style="list-style-type: none"> ・高密度のラジカルを利用した基材表面のエッチング加工 ・高効率で歪を生じない加工 ・厚み測定器と組み合わせたNC加工により、基板平坦性(TTV)向上 被加工物： Si及びSiO ₂ (水晶、ガラス)基板					
PAP Plasma Assisted Polishing ECO	技術の特徴： <ul style="list-style-type: none"> ・プラズマによる基材表面の活性化現象を利用した硬質材料の高速研磨加工 ・研磨剤、スラリーを用いないドライ & クリーン加工 被加工物： ダイヤモンド(単結晶、多結晶)					
ECMP Electro-Chemical Mechanical Polishing ECO	技術の特徴： <ul style="list-style-type: none"> ・基板表面の陽極酸化(軟質化)現象を利用した高速研磨加工 ・イオン導電性パッドを用い、薬液(電解液)を使用しないクリーンな加工 被加工物： SiCウェハ					
CARE CAlyst Referred Etching ECO	技術の特徴： <ul style="list-style-type: none"> ・触媒機能を持つパッドによる原子スケールでの平坦化加工 ・加工変質層、ダメージ層のない原子レベルで欠陥のない表面を創出 ・媒体は純水のみで、研磨剤等のメディアが不要でクリーンな加工 被加工物： Si、水晶、サファイア、GaN、SiC、LT/LN等種々の半導体基板					

ご清聴ありがとうございました



JTEC CORPORATION

<https://www.j-tec.co.jp>

免責事項

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、内部・外部要因等により変動する可能性があります。当社は、本資料の情報の正確性、完全性及び実現性について、何ら表明及び保証するものではありません。



Appendix

INDEX

05-01

会社紹介

1993

大阪コンピュータ株式会社との共同出資により、大阪府吹田市に株式会社ジェイテックを設立

1993

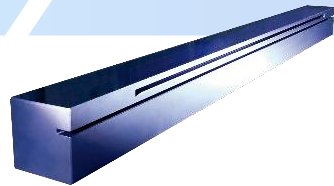


各種自動細胞培養装置の開発、製造及び販売を開始

2004

本社を神戸市中央区へ移転

2003



放射光用高精度形状ミラーの事業開始

2015

本社を茨木市彩都やまぶきへ移転

2016

株式会社ジェイテックコーポレーションに商号変更

2013

2016

大阪大学内に細胞培養センターを開設



2019

新社屋完成
本社棟・加工棟・計測棟



2018

東京証券取引所マザーズ上場

2020

東京証券取引所市場第一部への上場市場変更



次世代加工・研磨システムの事業開始
(第一弾：水晶振動子ウエハ加工システム)

2022

東京証券取引所市場第一部から新市場区分「プライム市場」へ移行

2021

電子科学株式会社を子会社化



2023

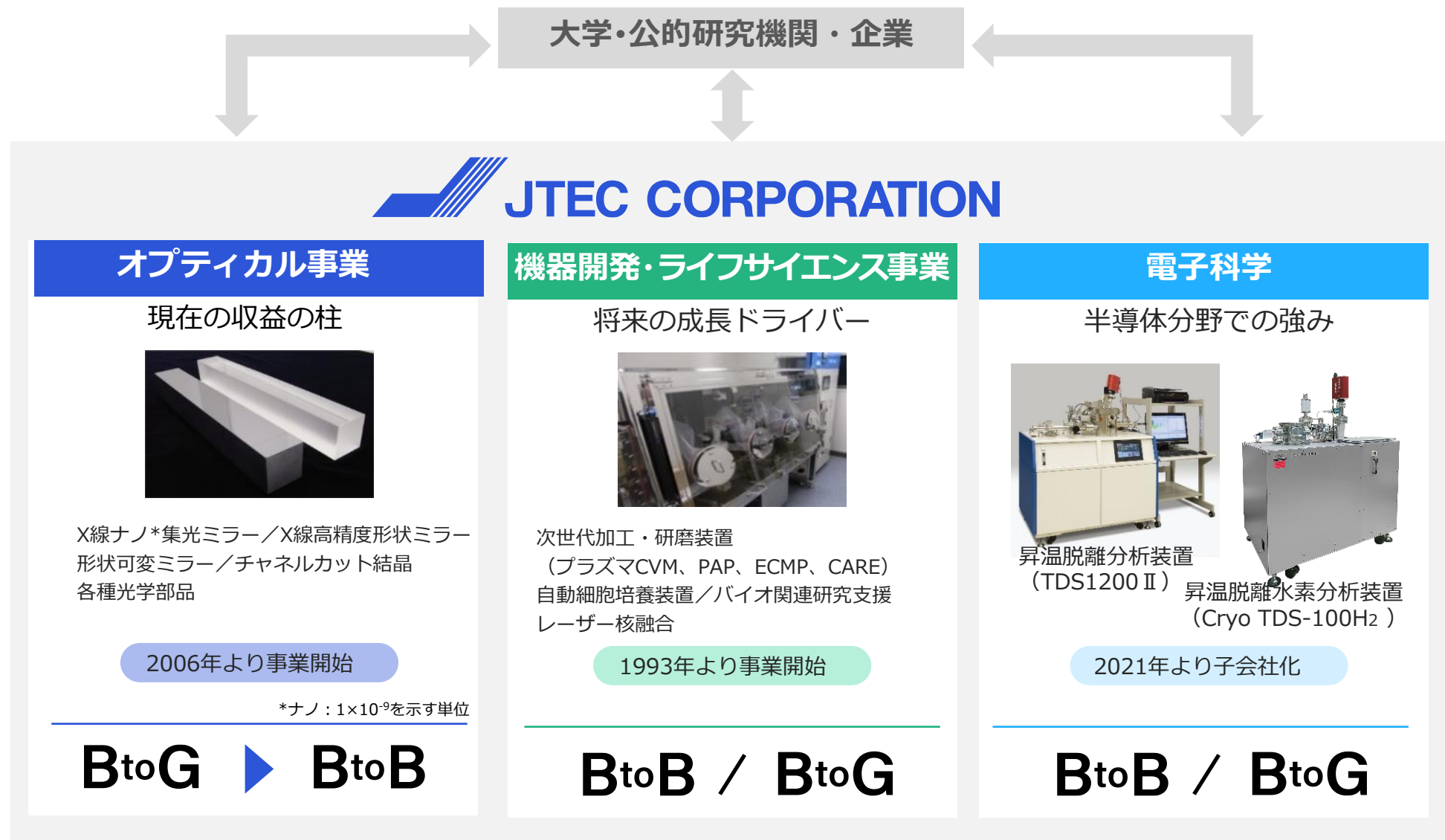
大阪大学と共同研究部門を設立

2023

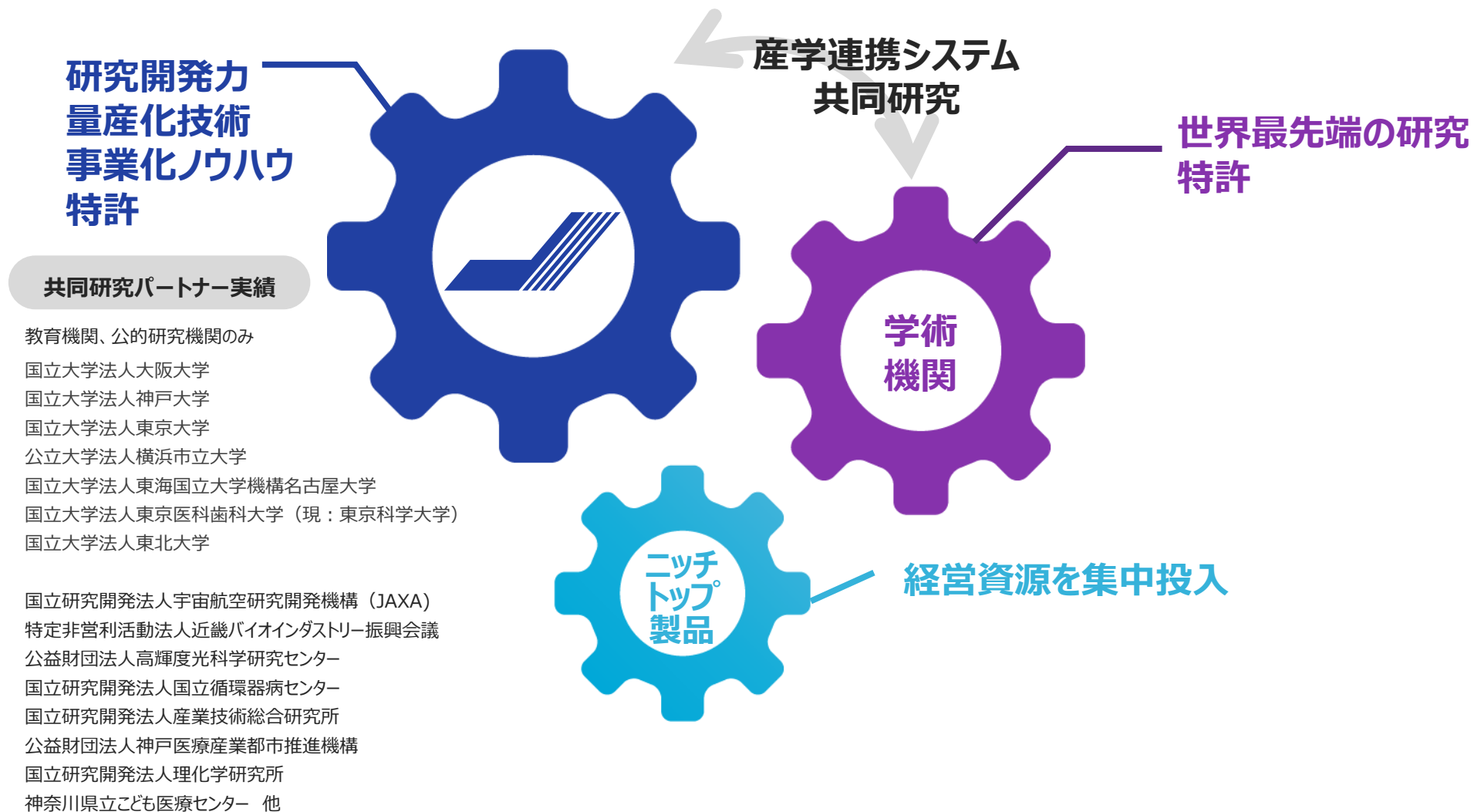
2022

栃木生産技術センターを開設





- 世界最先端となるニッチトップ製品の量産化、事業化で付加価値創出

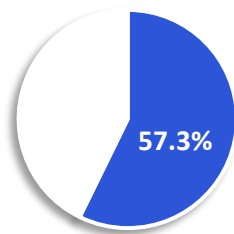


世界最先端技術を欲する顧客（企業、大学・研究機関）

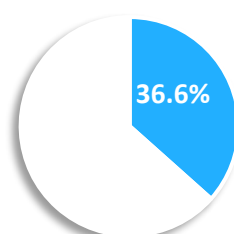
2018年度以降 4年間の売上数量と当社の超精密加工・計測技術を適用したミラーの数量

売上全数量	521 (本)
当社の技術を適用したミラーの本数	521
当社の技術を適用した高精度ミラーの本数	333

ジェイテックコーポレーションの
ミラー市場シェア



ミラー市場における
高精度ミラーの比率



ジェイテックコーポレーションの
高精度ミラー比率



ジェイテックコーポレーション市場調査結果

- 当社が把握している稼働中の放射光施設が世界に約50ヶ所あり、ビームライン数は平均約20本。各ビームラインで使用するミラー本数は通常7本程度なので、使われるミラーの総本数を約7000本と見積る。通常4年間で13%程度が新設またはリプレイスされるため、4年間のそれら総必要本数は約910本と考えられる。
- 高精度ミラーの総本数を333本と見積るのは、全世界の高精度ミラーの入札に参加している当社が全て落札していることを根拠としている。

高精度ミラーの定義

以下の4項目のいずれかを満たす

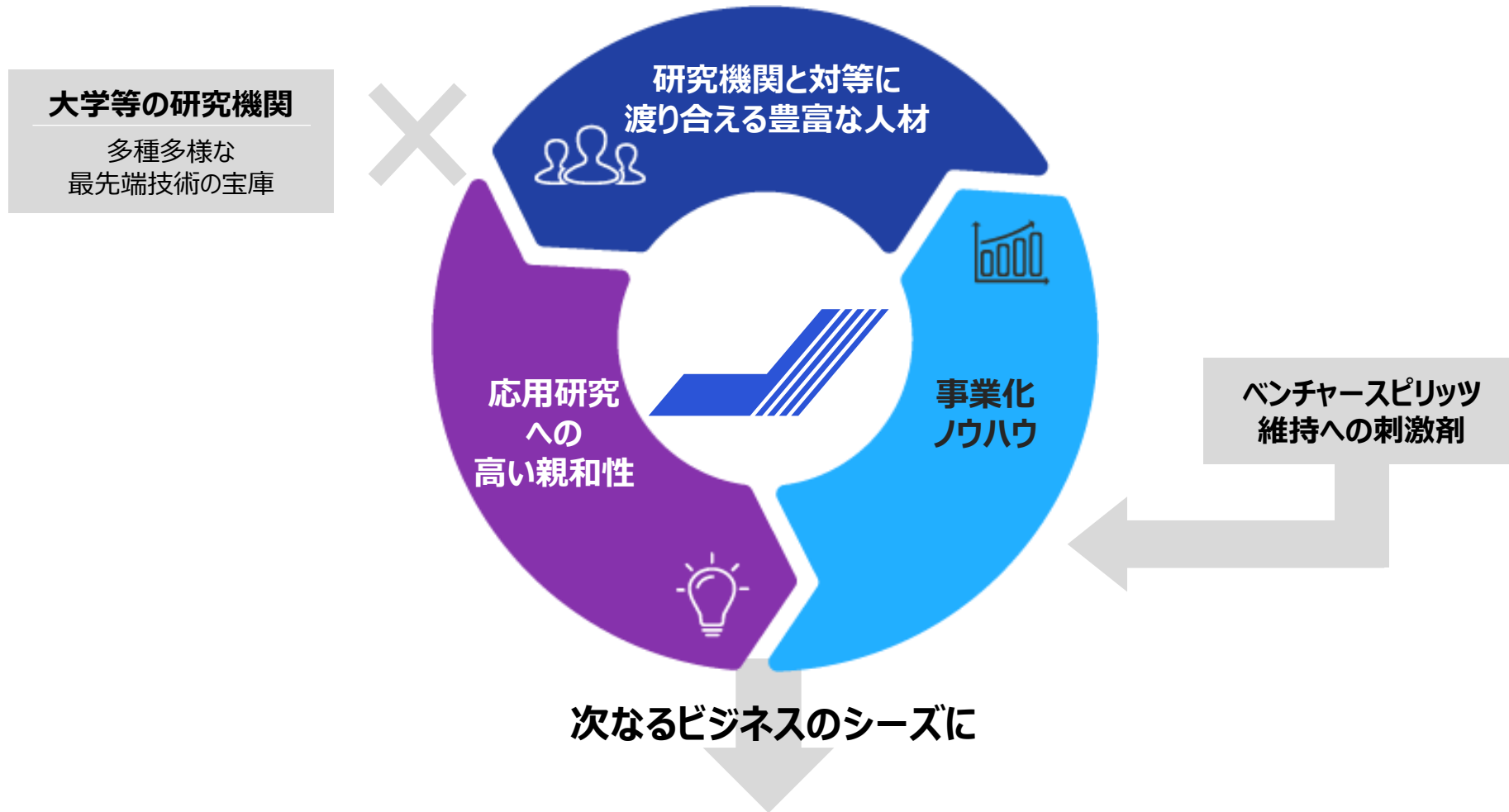
- 表面精度の仕様として「傾斜角誤差0.15 $\mu\text{rad rms}$ ※1 以下または形状誤差10 nm PV※1 以下」
- 表面粗さの仕様として「0.2 nm rms ※2 以下」
- 外観の仕様として「傷の幅が10 μm 以下」
- 表面性状の仕様として「加工変質層がなきこと」

※1 $\mu\text{rad rms}$ と nm PV はいずれも表面の凹凸の度合いを表す単位であり、前者は局所的な傾斜角の二乗平均を、後者は一番高いところと一番低いところの高低差を表す

※2 nm rms は表面微小領域における凹凸の度合い単位であり、高低差の二乗平均を表す

産学連携（強み）

- ビジネスアイデアと人材活性化に好影響
- アイデアを実用化できるビジネス感覚を活かし、新規事業へ展開



当社のビジネスは柔軟に変化

© 2025 JTEC CORPORATION All Rights Reserved.

競争的資金から大型プロジェクトへの展開

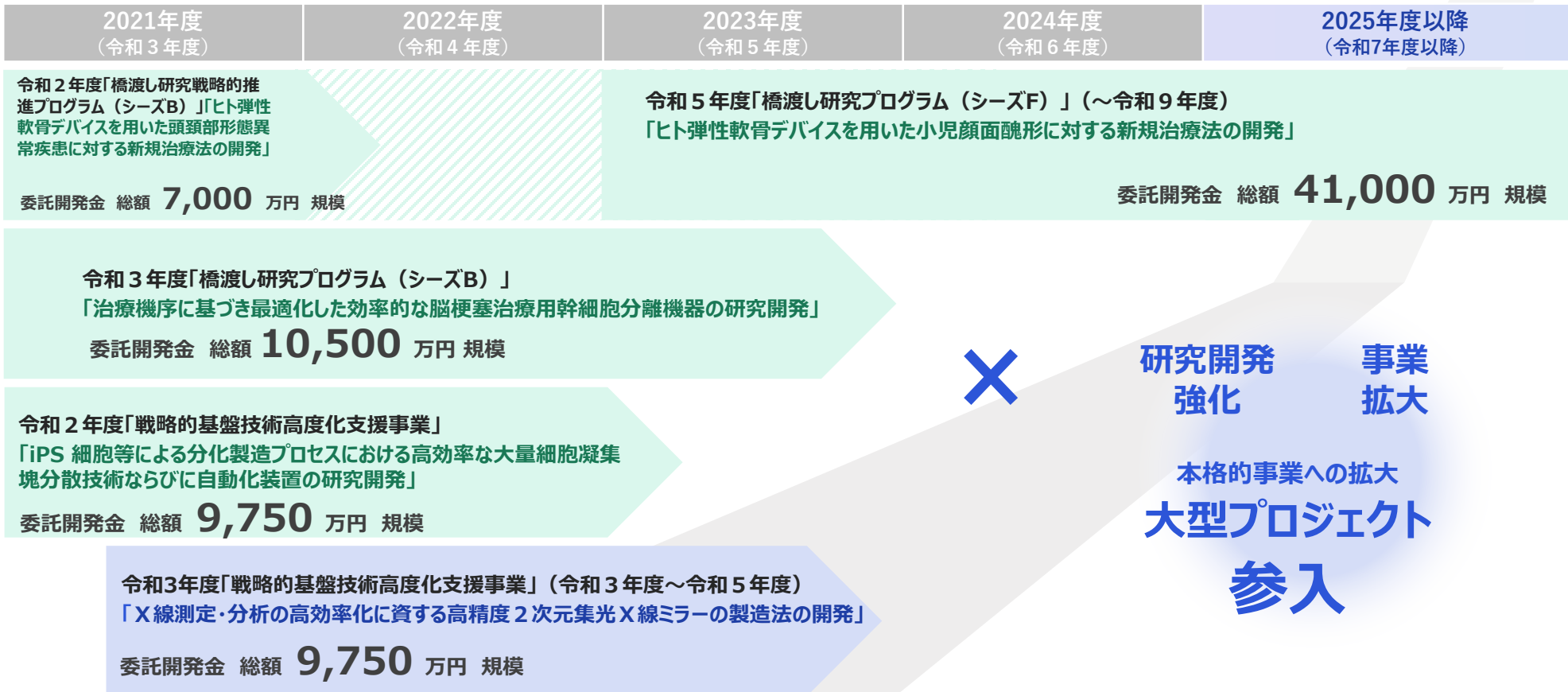
最近の受賞歴

経済産業省「2020年版グローバルニッチトップ企業100選」に選定

経済産業省、近畿経済産業局「関西ものづくり新撰2021」に当社の継代培養技術「J-iSS」が選定

発明協会「令和5年度全国発明表彰」の未来創造発明奨励賞に「特許第5070370号」（ナノ集光X線ミラー作製のための超精密測定法の発明）が選定

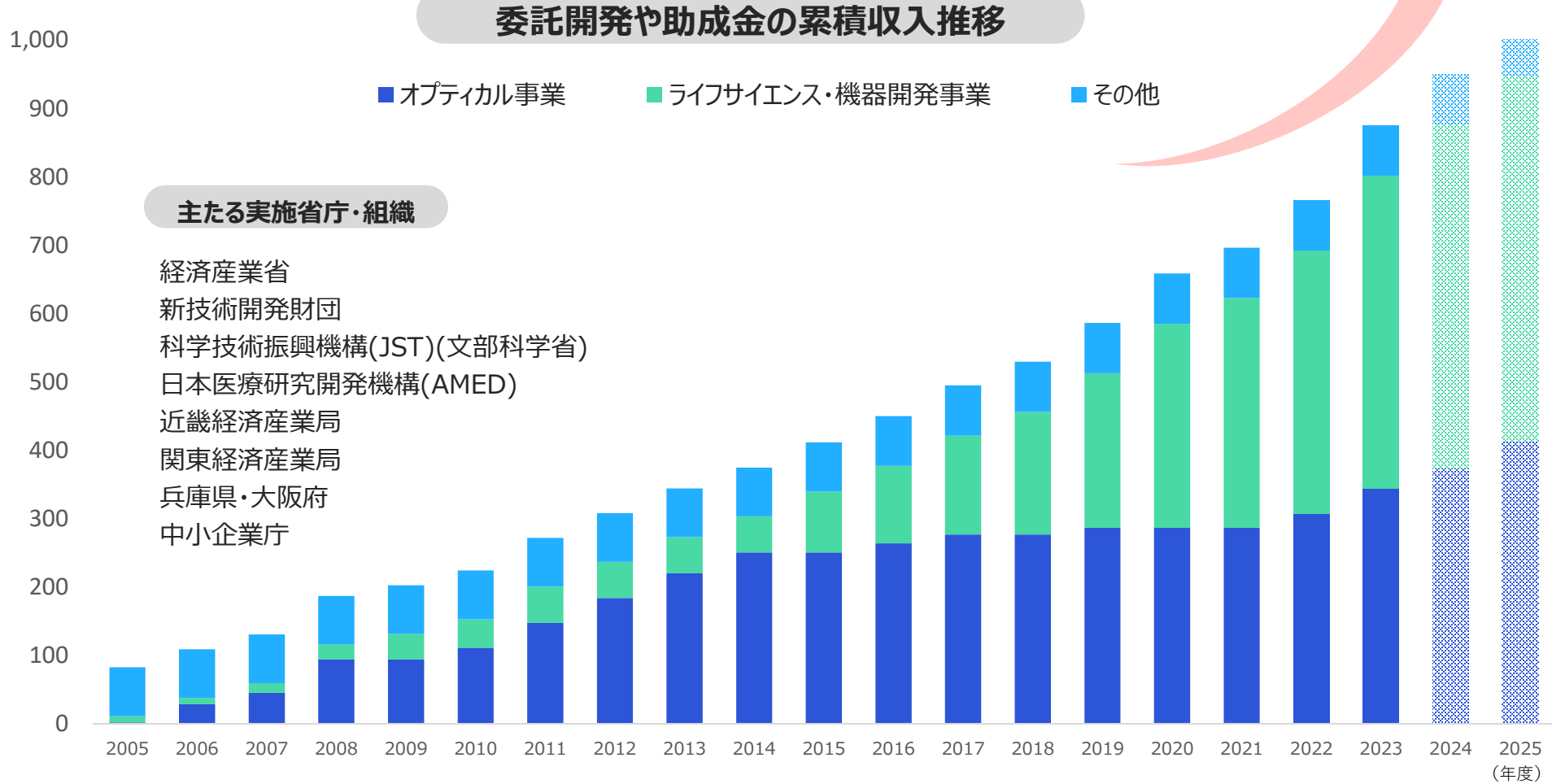
競争的資金の採択状況



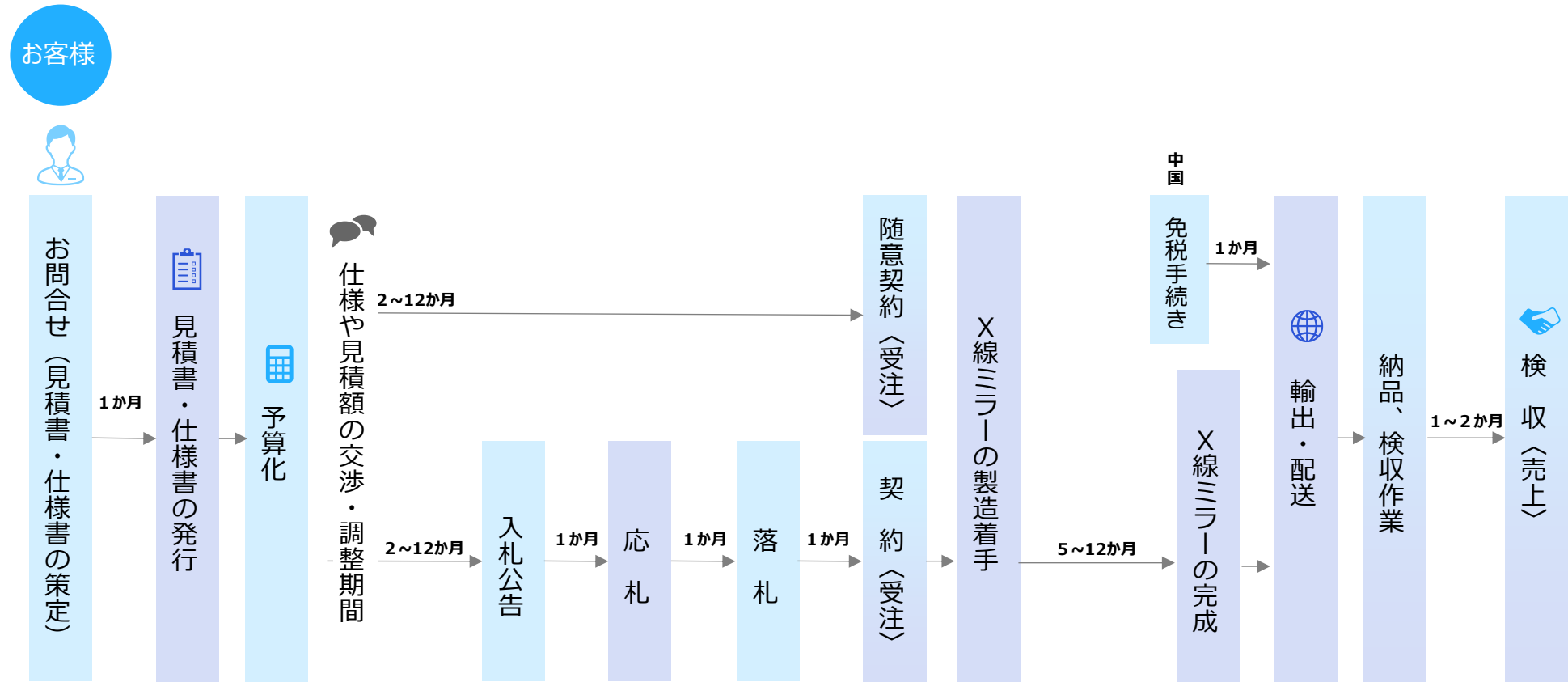
評価される技術力

- 公的機関からの委託開発や助成金収入は累計で約9億円、評価主体は省庁、地方自治体、JST、AMED

(百万円)



X線ミラーの検収までの流れ(公的機関から受注した際の検収までのプロセス)



見積もり作成から受注まで約 1 年

受注から検収まで約 1 年

会社概要

社名	株式会社ジェイテックコーポレーション / JTEC CORPORATION	
代表者	代表取締役社長 津村 尚史 (つむら たかし)	
本社住所	大阪府茨木市彩都やまがき2-5-38	
創業年月	1993年12月21日	
資本金	837,948千円 (2024年6月末時点: 連結)	
役員構成	代表取締役社長	津村 尚史
	取締役 営業部長	金岡 政彦
	取締役 管理部長	日谷 哲也
	取締役	辻岡 正憲
	社外取締役	川崎 望
	社外取締役	松見 芳男
	社外取締役	長谷川 功宏
	常勤監査役	綾部 剛
	社外監査役/公認会計士	梅田 浩章
	社外監査役/弁護士	片岡 牧
事業内容	<p>オプティカル事業：放射光用高精度形状ミラーの設計・製作及び販売 ライフサイエンス・機器開発事業：医療/バイオ向け各種自動化システムの開発設計・製作及び販売</p>	
売上高	2,010,340千円 (2024年6月期: 連結)	
従業員数	75名 (2024年6月末時点: 連結)	
拠点	当社	本社/開発センター：大阪府茨木市 細胞培養センター：大阪府吹田市 (大阪大学内) 栃木生産技術センター：栃木県那須塩原市
	子会社	電子科学株式会社：東京都武蔵野市
総資産	3,567,522千円 (2024年6月末時点: 連結)	



代表取締役社長
津村 尚史



INDEX
05-02

*Innovation*2030

Innovation2030

中長期成長戦略

経営理念

世の中にないオンリーワンの技術により製品を作り出し、
広く社会に貢献する

経営方針

科学技術イノベーションの創出に貢献する
製品開発を推進する

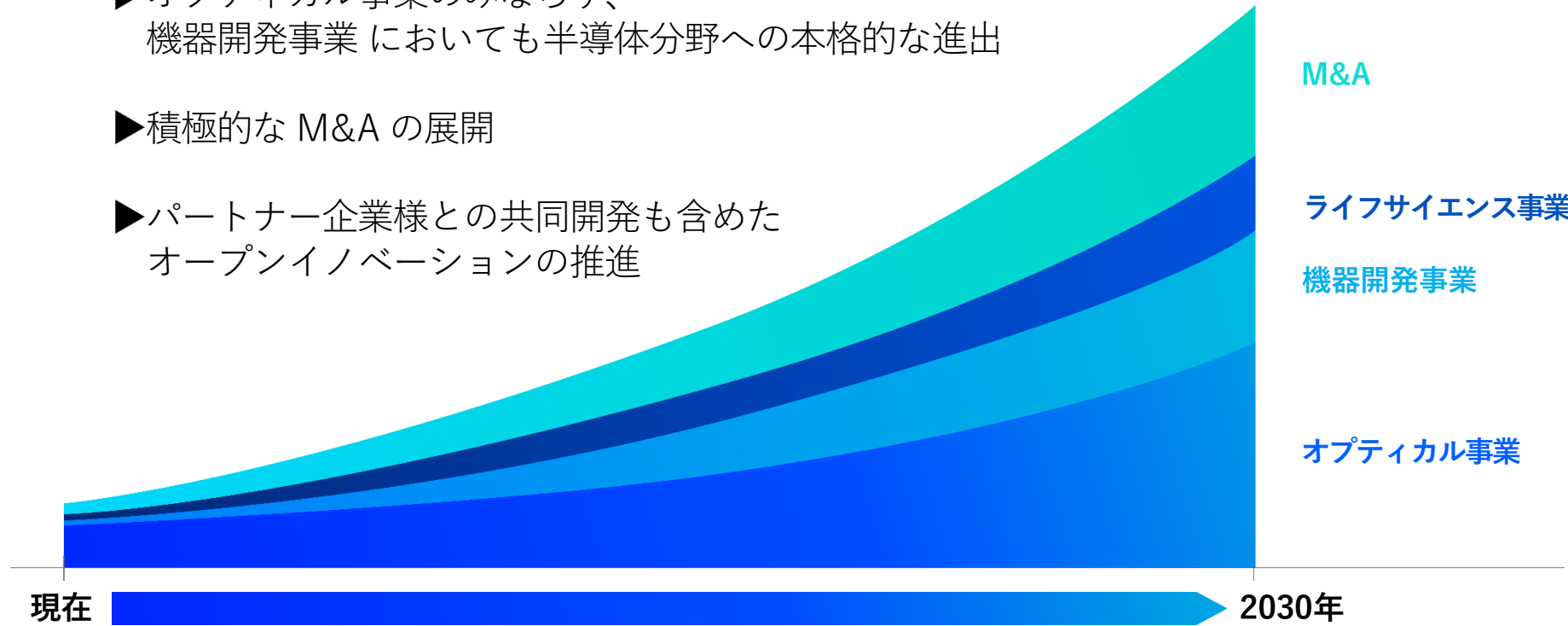
Innovation2030

——— 下記 2 施策を中心とした中長期成長戦略 ———

1 事業領域の拡大

2 既存事業の深耕

- ▶ オプティカル事業のみならず、
機器開発事業においても半導体分野への本格的な進出
- ▶ 積極的な M&A の展開
- ▶ パートナー企業様との共同開発も含めた
オープンイノベーションの推進



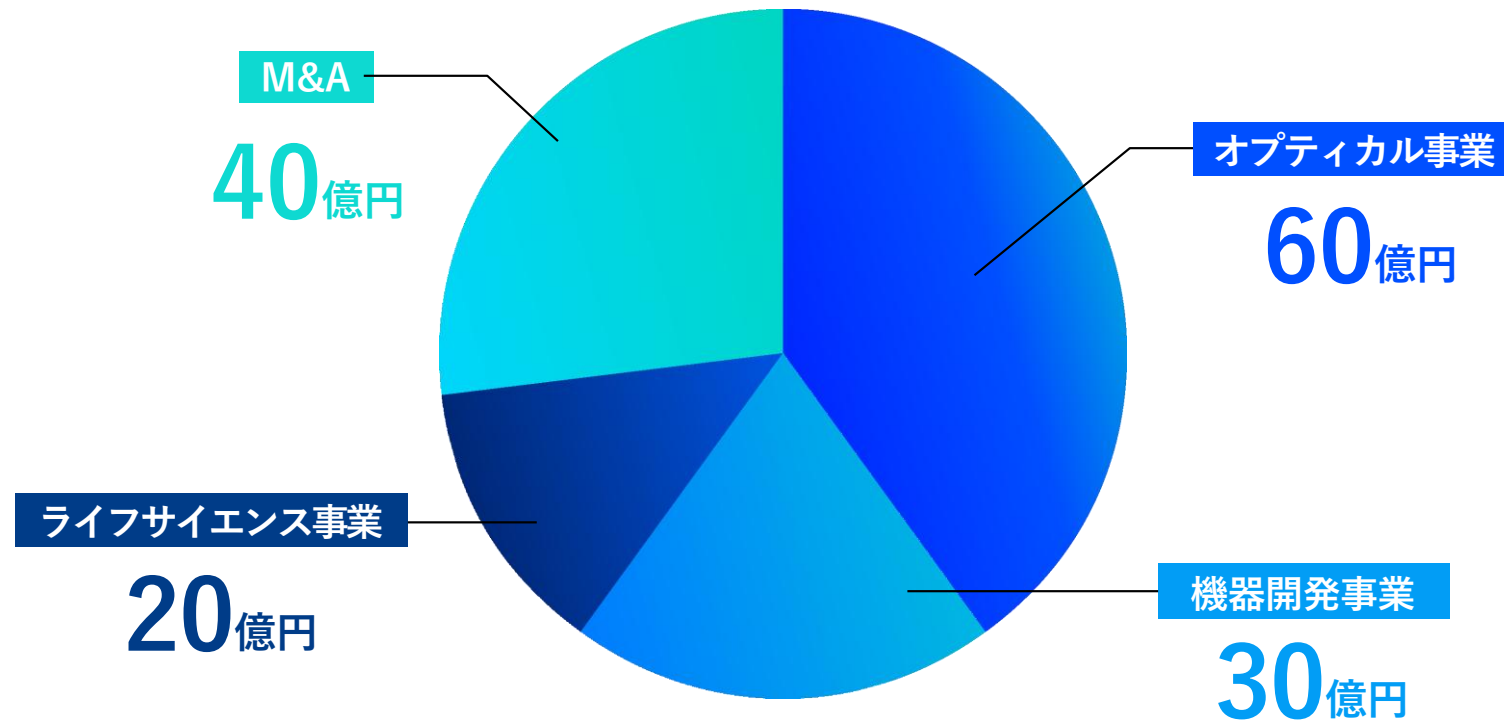
Innovation2030

2030年連結売上

150 億円

2030年
経常利益率

25 %



Innovation2030 3つの開発方針

1 顧客のニーズに応える

わたしたちは、顧客が「何を求めているのか？」に真摯に向き合います。

既に所有している技術力に甘えることなく、常に新しい技術を探求し、顧客の課題を発見し、課題解決につながる技術を開拓することで、「社会に貢献する製品を創る」という理念を達成します。

ニーズに応えるために、パートナー企業様等との共同開発も積極的に実施します。

2 既存技術を応用開発する

わたしたちは、ナノ表面加工及びナノ計測技術に関して、卓越した技術を所有していると確信しています。医療分野でも、長年培った自動細胞培養に関する各種ノウハウを所有しています。

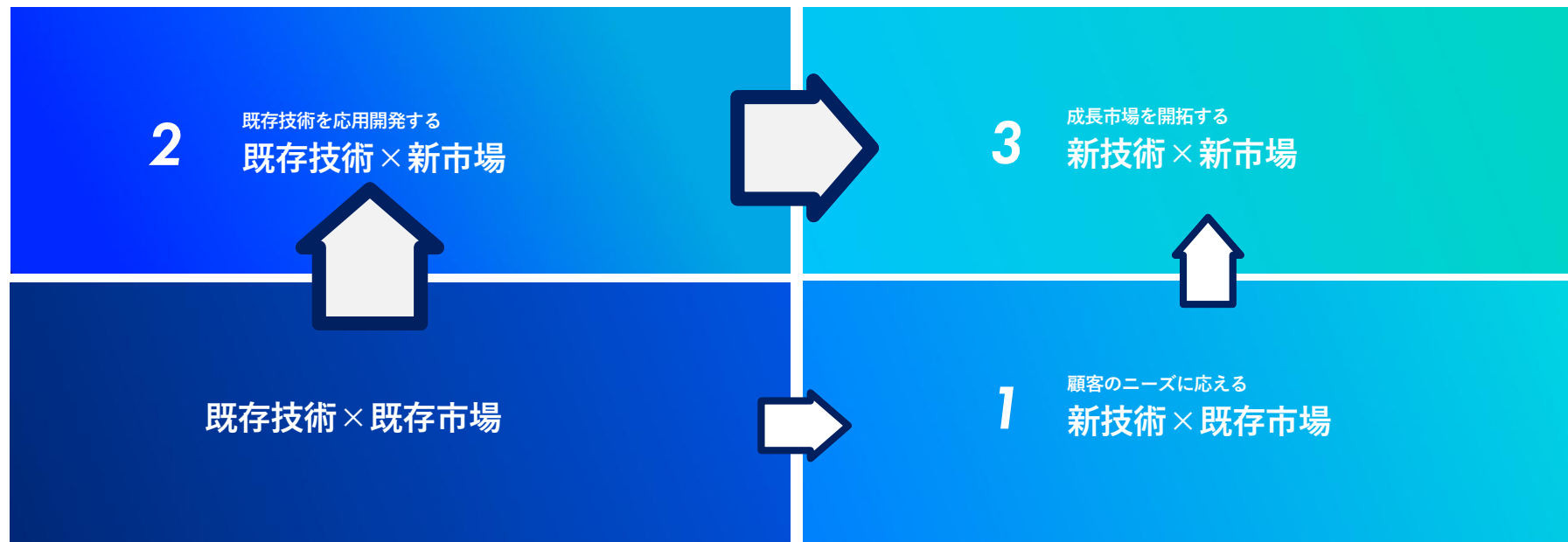
これらの技術の応用技術を開発することで、既存の技術力を更に高め、新たな分野へ進出します。

既存技術の発展のために、パートナー企業様等との共同開発も積極的に実施します。

3 成長市場を開拓する

わたしたちは、世の中になかったオンリーワン技術により社会に貢献することを理念にしています。

わたしたちは、限られたリソースで成長市場(半導体・再生医療等)を開拓することで、より大きな社会貢献を達成します。



Innovation2030 3つの開発方針

1 顧客のニーズに応える

わたしたちは、顧客が「何を求めているのか？」に真摯に向き合います。

既に所有している技術力に甘えることなく、常に新しい技術を探求し、顧客の課題を発見し、課題解決につながる技術を開拓することで、「社会に貢献する製品を創る」という理念を達成します。

ニーズに応えるために、パートナー企業様等との共同開発も積極的に実施します。

2 既存技術を応用開発する

わたしたちは、ナノ表面加工及びナノ計測技術に関して、卓越した技術を所有していると確信しています。

医療分野でも、長年培った自動細胞培養に関する各種ノウハウを所有しています。

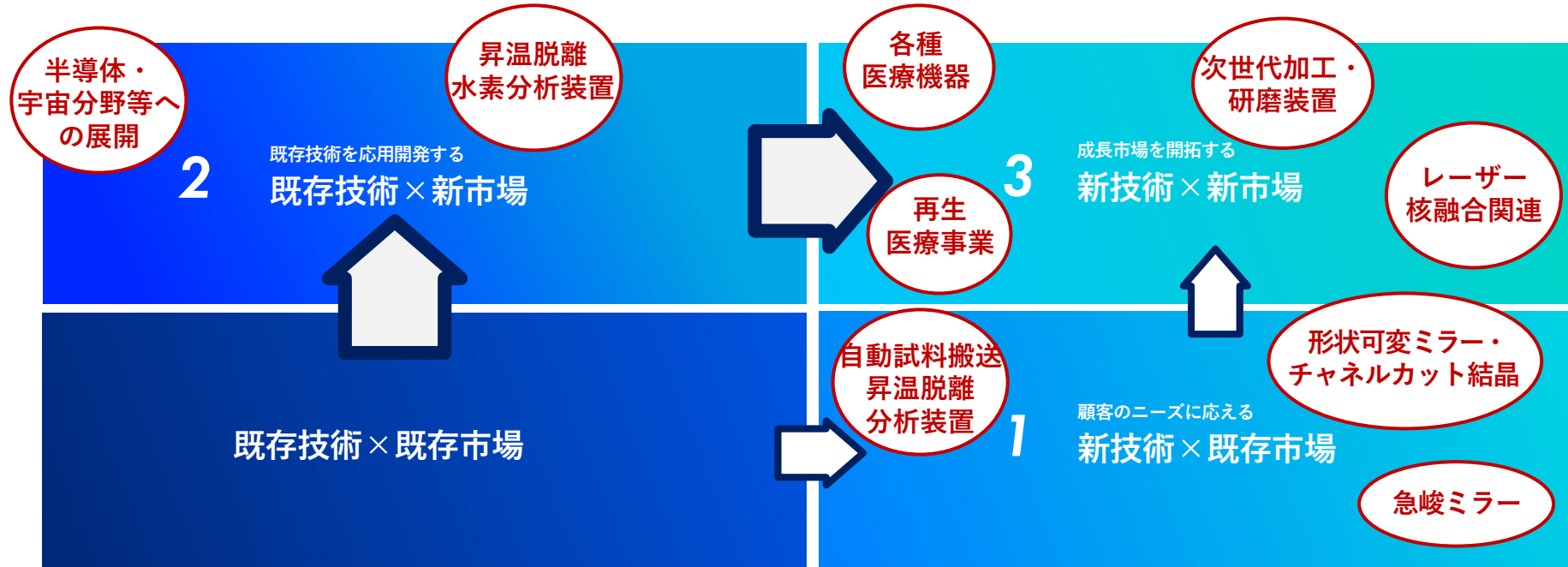
これらの技術の応用技術を開発することで、既存の技術力を更に高め、新たな分野へ進出します。

既存技術の発展のために、パートナー企業様等との共同開発も積極的に実施します。

3 成長市場を開拓する

わたしたちは、世の中になかったオンリーワン技術により社会に貢献することを理念にしています。

わたしたちは、限られたリソースで成長市場(半導体・再生医療等)を開拓することで、より大きな社会貢献を達成します。



加工技術及び計測技術の優位性を活かした事業を展開することで、放射光施設向けのシェアを拡大し、同時に新たな需要（特に半導体検査工程及び宇宙関連分野）に応え、2030年度に約60億円を達成する。

市場動向と顧客のニーズ

放射光施設 自由電子レーザー施設の動向

- | 世界中で大型放射光施設のアップグレード計画が目白押し
- | 中国全土で次世代放射光施設のアップグレード計画、新設計画及びX線自由電子レーザー施設の新設計画が顕在化

半導体製造及び検査工程

- | 次世代半導体製造装置及び検査装置に対応した次世代光学部品の需要拡大

宇宙産業

- | 衛星搭載用のX線測定・分析のための、高精度2次元集光X線ミラーの計画を推進

弊社の取り組み

光学部品加工

弊社の既存技術と製品

既存技術

ナノ加工技術 = EEM
ナノ計測技術 = RADSI MSI

新技術

先端的加工技術 = CARE等

2030年の姿

既存市場を深耕し、シェアを拡大
半導体及び宇宙分野における新市場の需要に応える

技術戦略

- | 大学を中心とする各研究機関との共同研究
- | 協業メーカーとの開発によるオープンイノベーション

▶ 可変、薄膜、結晶加工を用いた新製品開発

市場及び需要に応える

- | 拡大を続ける放射光施設、自由電子レーザー施設への導入
- | 半導体製造及び検査工程への次世代光学部品の提供
- | 衛星搭載の光学部品を皮切りに宇宙産業への参入

オプティカル事業 2030年売上

既存市場

高精度ミラー

20 億円

リプレースミラー

5 億円

新規市場

半導体製造装置及び検査装置に
関連する光学部品適用

20 億円

次世代半導体及び衛星、天体等
高精度特注光学部品適用

15 億円

合計 **60** 億円

SiC, GaNなどを用いた次世代パワー半導体の製造工程に対して、弊社独自のCARE加工等の適用を図り、次世代パワー半導体及び各種電子デバイスのウェハ研磨装置を開発する。

半導体分野の将来動向

SiC・GaNなどを用いた次世代パワー半導体等の市場が成長

▶研究段階から実用段階へ移行

半導体デバイス開発及び各デバイスメーカーの課題

次世代パワー半導体の精度向上及び量産体制の構築

- ▶加工/計測のさらなる高精度、高効率化が不可欠
- ▶ナノレベルでの表面平坦化、厚みの均一化

半導体デバイスメーカーが抱える課題のソリューション

- ▶弊社の技術及び製品で解決可能な状況とする
 - ・高精度な平坦化加工技術が必要
 - ・表面改質及び形状加工技術が必要

弊社の取り組み

装置開発

2030年の姿

- 1 顧客ニーズ及び課題の徹底解剖
- 2 弊社技術の提供、改良及び共同研究
 - ▶加工の対象物、形状、要求精度などに応じた装置を開発

既存技術及び既に取り組みに着手している新技術

- | 原子レベルのナノ加工：EEM表面加工技術
- | 究極の平坦化加工：CARE表面加工技術

▶半導体分野で求められる高精度の平坦化半導体分野での技術応用の目途が立っている

実用化開発

- | 表面改質及び形状の加工：プラズマCVM
イオンビーム

ウェハ研磨装置の開発を実施

- | 次世代パワー半導体、トランジスタ、コンデンサ
SAWフィルタ、水晶振動子

体制の整備

- ▶半導体に取り組むリソースの確保
- ▶半導体向け技術革新専門チームを組成し開発を促進

機器開発事業2030年売上

—CARE加工技術—

SiC,GaN などの
次世代パワー半導体向け研磨装置

20 億円

※(株)東邦鋼機製作所との共同開発

—プラズマCVM、イオンビーム加工技術—

水晶振動子及びその他電子デバイス向け
ウェハ加工装置

5 億円

—世界のレーザー核融合施設向け製品—

形状可変ミラー、マニピュレーター、
及び新規製品開発

5 億円

※(株)EX-Fusionとの技術連携

合計

30 億円

自動細胞培養装置及びラボオートメーションの製造販売だけでなく、細胞を必要とする事業及び再生医療に関するコンサルティングまで含め、自動細胞培養に関するトータルソリューションを一通貫で提供する。

顧客のニーズ及び課題

細胞培養の主流は手作業だが…

課題

培養士の育成 / 人件費の抑制 / 働き方改革

▶ ラボオートメーションが規模を拡大している

ニーズ

世界各国が創薬事業を支援
再生医療支援 ラボオートメーション化、
間葉系幹細胞(MSC)による治療の拡大

▶ 世界の創薬/再生医療市場も拡大傾向

各国製薬会社

薬価の引き下げが課題

▶ 自動細胞培養装置の導入によるコストダウン

▶ 創薬向けiPS 細胞の大量培養の必要性

弊社の取り組み

細胞事業 | 再生医療 | 培養装置 | 医療機器

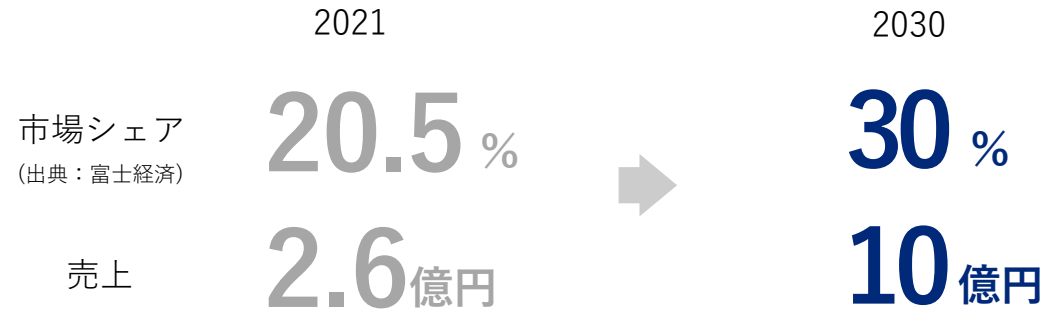
現在の事業

主に研究施設への自動細胞培養装置の製造販売

2030年の姿

- 1 研究施設への自動細胞培養装置の販売だけでなく、ラボオートメーションへの展開
- 2 間葉系幹細胞 (MSC) 治療への展開
▶ 当社の培養技術 CELLFLOAT® を用いて MSC 培養技術を確立
- 3 再生医療へ培養装置及びコンサルティングの提供
- 4 大学、研究機関と取り組んでいる医療機器開発

ライフサイエンス事業2030年売上
自動培養装置及び周辺装置(オートラボ)の製造販売



※2021年は自動培養装置の
日本市場のシェア
2030年は自動培養装置の
アジア市場のシェア
をそれぞれ指しています。

細胞事業、再生医療事業、医療機器製造販売

10億円

当社の培養技術CELLFLOAT®を治療へ展開

- ▶間葉系幹細胞 (MSC)を用いた細胞事業への進出
- ▶培養軟骨を用いた再生医療事業
(形成外科・美容整形分野)への進出

医療機器開発

2030年までに
3製品 上市

合計 20 億円

1 子会社とのシナジー

電子科学株式会社(2021年5月に完全子会社化)

下記の2つでシナジーを産みだす

- | 当社の営業網を活用して電子科学株式会社の製品拡販
- | 製品の共同開発

2 今後は更に積極的なM&Aを展開

M&Aによりシナジーを産みだし、既存サービスの成長を加速

- | オプティカル分野
- | 加工、分析及び検査分野
- | ライフサイエンス分野

合計 **40** 億円

Innovation2030において、わたしたちはESGを一層重視し、ガバナンスを強化します。

執行と経営の分離

意思決定のスピードと質を高めるために、下記施策を実施します。

- ① 執行役員制度を設け、業務の執行と監督を分離します。取締役会と経営会議を明確に分離し、統治体制を築きます。
- ② 業務の「見える化」を進め、各業務の「責任及び権限の所在」を明確にします。

ステークホルダーとの対話

今後、株主ミーティングなどを定期的
に開催し、株主様と積極的にコミュニケーションをします。株主様に弊社の
将来性をご理解いただき、弊社の価値観をより深く伝達することで、お互い
がWIN-WINとなる状況を築きます。

その他、弊社取引先様、従業員、地域の住民様及び企業様などと深い関係を構築し、ステークホルダー様全員と中長期的に成長してまいります。

Mission, Vision, Value 策定

わたしたちは、「世の中にないオンリーワンの技術により製品を作り出し、広く社会に貢献する」ことを経営理念にしていますが、それが一体「何を意味するのか？」までを公表することはありませんでした。

取締役会、経営会議、人事担当、IR担当、広報担当など関係各部署が連携し、経営理念を更に発展させ、企業内外へ発信し、企業文化として経営に反映させてまいります。

世界の大型レーザー核融合施設一覧

既設また今後アップグレードが予定されている世界の大型レーザー核融合施設は下記のとおりです。
 下記施設にて核融合を含む各種の科学技術実験が行われています。
 レーザー核融合施設で用いられる高出力レーザー向け形状可変ミラー・マニピュレーターを販売します。

世界の大型レーザー施設

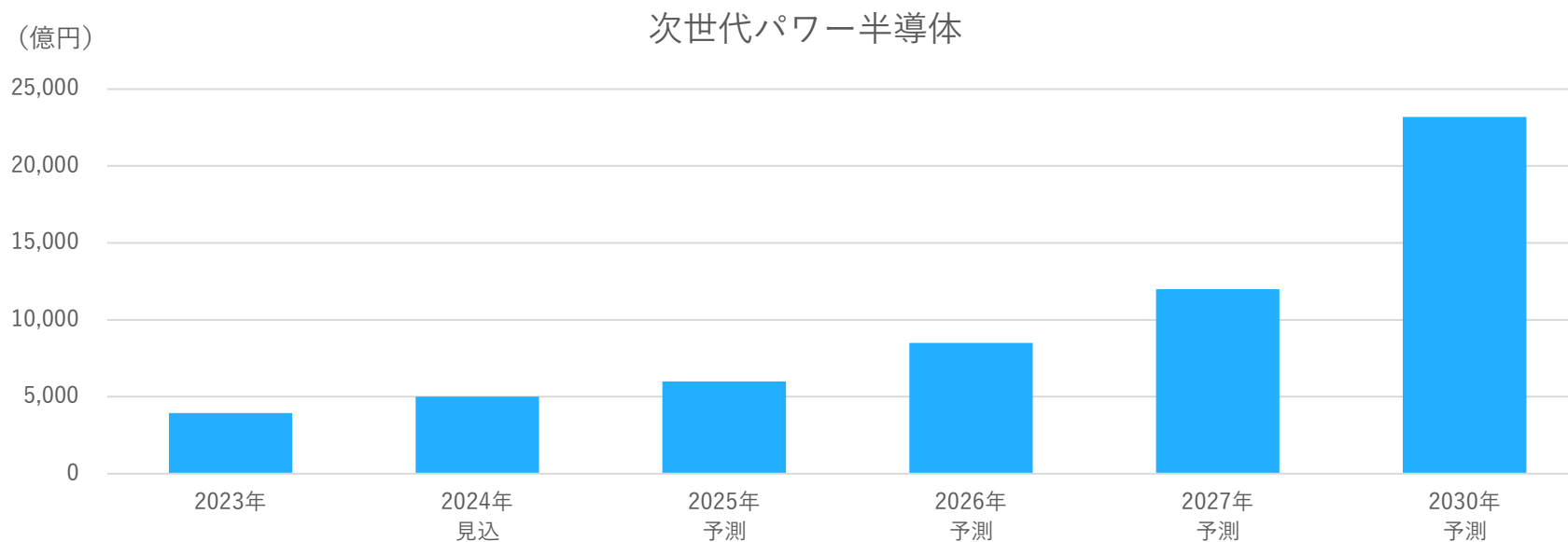
	施設	レーザー施設名	所在国
1	大阪大学	Gekko-XII	日本
2	大阪大学	LFEX	日本
3	理化学研究所播磨キャンパス	SACLA, 500TWレーザー	日本
4	QST	J-KAREN	日本
5	ローレンスリバモア国立研究所	National Ignition Facility,	米国
6	ローレンスリバモア国立研究所	Jupiter Laser Facility	米国
7	ロチェスター大学	OMEGA	米国
8	ロチェスター大学	OMEGA – EP	米国
9	テキサス大学	テキサスPW	米国
10	ミシガン大学	ヘラクレス	米国
11	中国科学院	星光III	中国
12	上海光機所	神光II	中国
13	中国軍事系研究所	神光III	中国
14	韓国原子力研究所	激光IV	韓国
15	CEA	Laser Maga Jule	フランス
16	エコールポリテクニーク	LULI2000	フランス
17	エコールポリテクニーク	APOLON	フランス
18	ラザフォード研	VULCAN	英国
19	ラザフォード研	Astra Gemini	英国
20	EU	ELI(Extreme Laser Infrastructure)	ハンガリー、チェコ
21	CLPU (CENTRO DE LASERES PULSADOS)	VEGA PW LASER	スペイン

次世代パワー半導体市場の市場規模予測

(億円)

	2023年	2024年 見込	2025年 予測	2026年 予測	2027年 予測	2030年 予測
次世代パワー半導体	3,944	5,000	6,000	8,500	12,000	23,200

出展：EE Times Japan 2024年02月



細胞培養装置（自動細胞培養装置／オートラボ＜自動分注ワークステーション＞）の市場規模(アジア市場)

(単位：百万円)

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2030
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	見込	予測	予測
自動細胞培養装置	2,115	2,630	2,300	2,480	2,540	3,255	3,575	4,120	5,865
オートラボ ＜自動分注ワークステーション＞	13,640	14,800	16,270	17,710	19,210	20,830	22,540	24,350	27,080
合計	15,755	17,430	18,570	20,190	21,750	24,085	26,115	28,470	32,945

出典：富士経済推計＜2021年＞＜2022年＞＜2024年＞から当社が予測

細胞性医薬品（MSC※^a／CAR-T細胞※^b）の市場規模

（単位：百万円）

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2030
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	見込	予測	予測
市場規模	2,040	3,660	2,370	3,820	9,500	17,500	23,300	25,000	35,000

出典：富士経済推計<2024年>

補足：

a. MSC（mesenchymal stem cell：間葉系幹細胞）

MSCとは、成体内に存在する幹細胞（ステムセル）の一つで、中胚葉由来の組織である骨や軟骨、血管、心筋細胞に分化できる能力を有します。

最近では、アルツハイマー病、パーキンソン病、GvHD治療、脳梗塞、脊髄損傷などの治療に細胞性医薬品として研究開発、実用化検討が進められています。

b. CAR-T（Chimeric Antigen Receptor T cell）細胞

CAR-T細胞とは、遺伝子医療の技術を用いてCAR（キメラ抗原受容体）と呼ばれる特殊なたんぱく質を作り出すことができるような患者自身のT細胞を改変したものです。

このCAR-T細胞を使った、難治性のがんを治療のことを「CAR-T療法」といいます。

耳鼻形成手術／変形性関節症手術に係る軟骨製品（再生医療製品）製造に係る現状の潜在市場規模

	培養容器	
	総患者数	潜在市場規模 (単位：百万円)
耳鼻形成出術（国内）	15,646人 ^{※1}	1,600
耳鼻形成出術（海外）	約110万人 ^{※1}	110,000
変形性関節症手術（国内）	約143万人 ^{※2}	143,000
変形性関節症手術（海外）	約3億人 ^{※3}	30,000,000

出典：下記3つの資料を基に弊社が作成。

※1

SAPS International Survey on Aesthetic/Cosmetic Performed in 2020, USA, Brazil, Japan, South Korea, Mexico, Germany, France, Colombia

※2

政府統計平成29年度患者調査（傷病分類編）厚生労働省政策統括官（統計・情報政策、政策評価担当）

※3

GBD 2017 Disease and Injury Incidence and Prevalence Collaborators. Global, regional, and national incidence, prevalence, and years lived with disability for 354 diseases and injuries for 195 countries and territories, 1990-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. Lancet. 2018 Nov 10;392(10159):1789-1858.

	培養装置	
	導入先	潜在市場規模 (単位：百万円)
耳鼻形成出術（国内）	約1,200台	12,000
耳鼻形成出術（海外）		
変形性関節症手術（国内）	約6,000台	60,000
変形性関節症手術（海外）		

	培養システム	
	導入先	潜在市場規模 (単位：百万円)
耳鼻形成出術（国内）	約200箇所	16,000
耳鼻形成出術（海外）		
変形性関節症手術（国内）	約1,000箇所	80,000
変形性関節症手術（海外）		

Disclaimer

本資料は、株式会社ジェイテックコーポレーションの業界動向及び事業内容について、株式会社ジェイテックコーポレーションによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。

これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性等の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性があります。

株式会社ジェイテックコーポレーションの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

本資料における将来展望に関する表明は、2025年2月12日現在において利用可能な情報に基づいて株式会社ジェイテックコーポレーションによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映したものではありません。